

宮崎市文化財調査報告書第47集

深田遺跡

～宮崎市総合スポーツ公園建設に伴う発掘調査～

2001

宮崎市教育委員会

序

世界中が西暦2001年を思いも新たに迎えました。私たちも改めて時の長さ、そして人類の歩んできた歴史の重みを感じさせられました。今日、各地で土地開発、宅地造成が行われていますが、その一方で、私たちの祖先の暮らしを知る貴重な遺跡・遺物も数多く発見されています。科学技術の発達した現代、私たちの暮らしに十分に反映出来る文化行政に取り組んでいきたいと考えています。

本書は、生目古墳群、跡江城址、跡江貝塚など多くの遺跡を有する跡江地区において、平成11年度に行われた深田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書であります。深田遺跡は平成5年度より「宮崎市制70周年記念事業」の一環として行われています、宮崎市総合スポーツ公園整備に伴う発掘調査で、古代と近世の掘立柱建物をはじめ、土師器、須恵器、陶器、磁器が多数出土いたしました。

この報告書が学術的にも、考古学に興味を持つ方々そして、宮崎市について知りたいと思われる方々などにも広く利用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘作業に従事していただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

宮崎市教育委員会

教育長 内藤泰夫

例　　言

- 本書は宮崎市役所都市整備部街路公園課による宮崎市跡江、有田地区における宮崎市総合スポーツ公園整備に伴う事前発掘調査の報告書である。
- 調査は平成11年5月10日～平成11年10月8日までの期間宮崎市教育委員会が実施した。
- 調査主体 宮崎市教育委員会　文化振興課

(平成11年度)

| | | |
|------|----|-------|
| 調査総括 | 課長 | 野間重孝 |
| | 係長 | 永井淳生 |
| 庶務担当 | 主事 | 竹野隆司 |
| 調査員 | 技師 | 鳥枝誠 |
| | | 稻岡洋道 |
| | | 宇田川美和 |
| | 嘱託 | 河野賢太郎 |

(平成12年度)

| | | |
|------|-----|------|
| 調査総括 | 課長 | 野間重孝 |
| | 係長 | 永井淳生 |
| 庶務担当 | 主事 | 竹野隆司 |
| 整理担当 | 技師 | 稻岡洋道 |
| | 主事補 | 仁尾忠尊 |
| | 嘱託 | 椎由美子 |
| | | 松永光雄 |
| | | 小川正子 |
| | | 久富なみ |

- 本書の執筆は稻岡が行った。
- 掲載図面の実測、製図、図版の作成は稻岡、仁尾、椎、松永、小川が行った。
- 現場での写真撮影は鳥枝、稻岡、河野が行った。
- 本書の編集は稻岡、久富が行った。
- 本書で使用した空中写真は株式会社スカイサーベイによるものである。
- 本遺跡出土遺物は宮崎市教育委員会が保管している。
- 本書実測図中で使用した遺構略号は以下のとおりである。
S B - 堀立柱建物 S S - 棚列 S C - 土坑 S E - 溝状遺構
- 実測図中の [] は擾乱である。
- 実測図中、破線は復元推定ラインである。
- 本文中の遺構の深さは検出面からのサイズである。
- 遺物実測図中断面図のトーンは以下のとおりである。



-土器



-須恵器



-陶器



-磁器

本文目次

| | |
|----------------------|----|
| 第Ⅰ章 はじめに | 1 |
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 立地と歴史的環境 | 1 |
| 第Ⅱ章 調査の結果 | 5 |
| 第1節 調査の概要 | 5 |
| 第2節 遺構と遺物 | 11 |
| (1) 掘立柱建物と出土遺物 | 11 |
| (2) 構列 | 20 |
| (3) 土坑と出土遺物 | 20 |
| (4) 溝状遺構と出土遺物 | 24 |
| (5) 遺物包含層出土遺物 | 27 |
| 第Ⅲ章 まとめ | 33 |
| 第Ⅳ章 附 | 53 |

挿図目次

| | |
|---------------------------------|----|
| 第1図 深田遺跡位置図 | 3 |
| 第2図 深田遺跡周辺図 | 4 |
| 第3図 深田遺跡調査区全体図 | 6 |
| 第4図 深田遺跡A区、B区遺構配置図 | 7 |
| 第5図 深田遺跡C区遺構配置図、C区北壁土層断面図 | 9 |
| 第6図 1号掘立柱建物実測図 | 11 |
| 第7図 2号掘立柱建物実測図 | 11 |
| 第8図 3号掘立柱建物実測図 | 13 |
| 第9図 4号掘立柱建物実測図 | 13 |
| 第10図 5号掘立柱建物実測図 | 14 |
| 第11図 6号掘立柱建物、3号土坑実測図 | 14 |
| 第12図 7号掘立柱建物実測図 | 15 |

| | | |
|------|--------------------|----|
| 第13図 | 8号掘立柱建物実測図 | 15 |
| 第14図 | 9号掘立柱建物実測図 | 16 |
| 第15図 | 10号掘立柱建物実測図 | 17 |
| 第16図 | 11号掘立柱建物実測図 | 18 |
| 第17図 | 12号掘立柱建物実測図 | 18 |
| 第18図 | 13号掘立柱建物実測図 | 19 |
| 第19図 | 14号掘立柱建物、4号土坑実測図 | 20 |
| 第20図 | 掘立柱建物出土遺物 | 20 |
| 第21図 | 柵列実測図 | 20 |
| 第22図 | 1号土坑実測図 | 22 |
| 第23図 | 2号土坑実測図 | 22 |
| 第24図 | 土坑出土遺物① | 22 |
| 第25図 | 土坑出土遺物② | 23 |
| 第26図 | 1号溝状遺構実測図 | 24 |
| 第27図 | 2・3号溝状遺構実測図 | 24 |
| 第28図 | 溝状遺構出土遺物 | 24 |
| 第29図 | B区IV層、C区IV層、試掘出土遺物 | 28 |

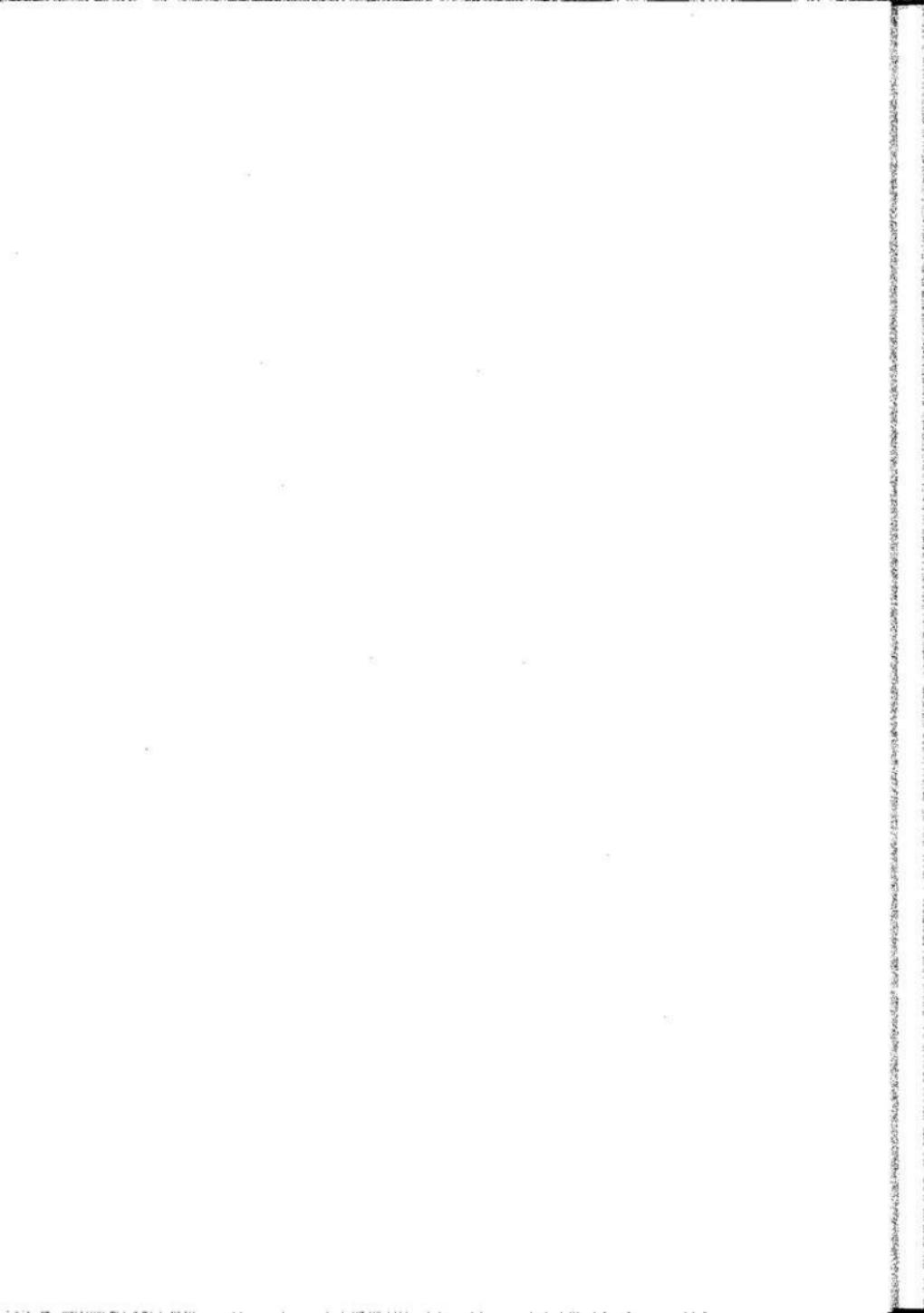
表 目 次

| | | |
|-----|-------------------|----|
| 第1表 | 出土遺物観察表1（土師器、須恵器） | 30 |
| 第2表 | 出土遺物観察表2（土師器、須恵器） | 31 |
| 第3表 | 出土遺物観察表3（土師器、須恵器） | 32 |
| 第4表 | 出土遺物観察表4（陶器、磁器） | 32 |

図 版 目 次

| | | |
|-----|--------------------|----|
| 図版1 | 深田遺跡周辺 | 35 |
| 図版2 | 深田遺跡全景 | 36 |
| 図版3 | 1～3号、10～14号掘立柱建物周辺 | 36 |

| | | |
|------|-----------------|----|
| 图版 4 | 4 ~ 6 号掘立柱建物周辺 | 37 |
| 图版 5 | 7 ~ 9 号掘立柱建物周辺 | 37 |
| 图版 6 | 2 号掘立柱建物 | 38 |
| 图版 7 | 4 号掘立柱建物 | 38 |
| 图版 8 | 5 号掘立柱建物 | 38 |
| 图版 9 | 6 号掘立柱建物、3 号土坑 | 39 |
| 图版10 | 7 号掘立柱建物 | 39 |
| 图版11 | 8 号掘立柱建物 | 39 |
| 图版12 | 9 号掘立柱建物 | 40 |
| 图版13 | 10 号掘立柱建物 | 40 |
| 图版14 | 11 号掘立柱建物 | 40 |
| 图版15 | 12 号掘立柱建物 | 41 |
| 图版16 | 13 号掘立柱建物 | 41 |
| 图版17 | 14 号掘立柱建物、4 号土坑 | 41 |
| 图版18 | 1 号横列 | 42 |
| 图版19 | 1 号土坑検出状況 | 42 |
| 图版20 | 1 号土坑遺物出土状況① | 42 |
| 图版21 | 1 号土坑遺物出土状況② | 43 |
| 图版22 | 1 号土坑遺物出土状況③ | 43 |
| 图版23 | 1 号土坑遺物出土状況④ | 43 |
| 图版24 | 1 号土坑遺物出土状況⑤ | 44 |
| 图版25 | 1 号土坑瓢箪出土状況 | 44 |
| 图版26 | 1 号土坑完掘状況 | 44 |
| 图版27 | 2 号土坑検出状況 | 45 |
| 图版28 | 2 号土坑完掘状況 | 45 |
| 图版29 | 1 号溝状遺構検出状況 | 45 |
| 图版30 | 1 号溝状遺構完掘状況 | 46 |
| 图版31 | 2 号溝状遺構西側完掘状況 | 46 |
| 图版32 | 2 号溝状遺構遺物出土状況① | 46 |
| 图版33 | 2 号溝状遺構遺物出土状況② | 47 |
| 图版34 | C 区北側IV層遺物出土状況① | 47 |
| 图版35 | C 区北側IV層遺物出土状況② | 47 |
| 图版36 | 出土遺物① | 48 |
| 图版37 | 出土遺物② | 49 |
| 图版38 | 出土遺物③ | 50 |
| 图版39 | 出土遺物④ | 51 |



第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

深田遺跡は周辺を水田に囲まれる小丘陵上に立地する畠地であったが、宮崎市制70周年記念事業の一環として取り上げられた「宮崎市総合スポーツ公園整備事業」によって現在宮崎市生日地区に在る西部総合運動場を拡充整備することとなり、西部総合運動場を含む周辺地域38haを整備することとなった。

そこで文化振興課では予定地域に近接して跡江貝塚、生日古墳群、石ノ迫第2遺跡、跡江城が立地することから、予定地域内においてそれらの時期に相当する集落、水田造構の可能性が想定されるため、開発に先立ち平成10年3月26日、30日、平成10年4月20日、21日に予定地域内で試掘調査を行い、水田地域を中心に50数本のトレッチを設定した。その結果、水田地域においては造構、遺物の確認はされなかったものの生日古墳群が立地する丘陵から枝状に伸びる小丘陵の先端のテラスより溝状造構、遺物包含層、土師器の坏等が確認されたため、開発に先立ち本調査が必要である旨を担当課である宮崎市教育委員会保健体育課に通知、その後、平成11年4月にスポーツ公園整備事業の担当課が保健体育課から宮崎市都市整備部街路公園課に変更、平成11年4月30日付けで「文化財保護法57条の3第1項の規定」の工事通知の届出があり、平成11年5月10日から平成11年10月8日までの期間発掘調査を実施した。

第2節 立地と歴史的環境

深田遺跡は宮崎市北西部宮崎市大字跡江に所在する。宮崎平野の中央部を流れる大淀川右岸、国指定史跡生日古墳群がある丘陵が存在する。その丘陵（以後、跡江丘陵と呼ぶ）は長靴状の形を呈し、西側部分では南東方向に枝状に小丘陵が伸びている。小丘陵は現状で県道宮崎南俣線で分断されているため独立する状態になっている。その小丘陵の南東先端部に深田遺跡は所在する。遺跡の周囲は沖積地で現状では水田が広がっている。

深田遺跡が所在する小丘陵の基幹をなす跡江丘陵には多数の遺跡が所在する。縄文時代では丘陵東部で縄文時代の押型文土器、塞ノ神式土器等が出土した跡江貝塚が所在する。弥生時代では跡江貝塚の北側で弥生時代中期の環濠集落が確認された石ノ迫第2遺跡が所在し、弥生時代中期の集落のほか、後期後葉の集落、土坑墓群、古墳周溝、地下式横穴墓が確認されている。跡江丘陵上とその周辺の沖積地には国指定史跡生日古墳群が所在する。古墳群は現在、前方後円墳7基、円墳22基、横穴墓9基が確認されており、1・3・22号墳は古墳時代前期にさかのばる100m級の前方後円墳である。生日古墳群では宮崎市総合スポーツ公園整備事業と共に宮崎市制70周年記念事業の一環として史跡整備事業が進行中で平成10年から発掘調査が行われており、平成9年、10年度の調査では3号墳において非常に良好な状態で葺石が検出されている。

跡江丘陵から南東約600mの位置には間越遺跡が所在しており、弥生時代後期後葉、古墳時代中期～後期の集落が確認され、古墳時代の堅穴住居30軒余りを始めとして掘立柱建物、土坑、溝状遺構、地下式横穴墓が検出されている。(註1)

深田遺跡と生日古墳群を分断するような形で巡る県道宮崎南保線の両脇では井戸遺跡、沖ノ田遺跡、雀田遺跡が所在し、井戸遺跡で古代から中世の堅穴住居が1軒検出されたほか、各遺跡からは高原スコリア下層から水田址が確認されている。

この他、深田遺跡の周辺には多くの古墳、遺跡、中世山城が存在する。大淀川左岸、跡江丘陵の向かい側にあたる上北方地区には県指定史跡瓜生野村古墳が所在し、丘陵斜面に50基余りの横穴墓が現存する。また、瓜生野村古墳から南東約1.3kmを中心とする一帯には前方後円墳4基、円墳13基、地下式横穴墓9基より構成される下北方古墳群が所在し、前方後円墳である13号墳(墳長100m)からは川西編年V期に相当する円筒埴輪、形象埴輪が出土している。また5号地下式横穴墓からは金製垂飾付耳飾、玉類、変形獸形鏡、変形文鏡、直刀、剣、鉢、鐵鎌など多くの副葬品が出土しており、築造年代は5世紀後半とされる。

深田遺跡の南約1.5kmの位置の字仙前、照明院に3基、その西方800mの字鳥越に10基の横穴墓より構成される浮田横穴墓群(県指定生日村古墳)が所在する。深田遺跡から南東3.3kmを中心とする位置には県指定大淀古墳群が所在し、前方後円墳で指定される3号墳は調査の結果、周溝が検出され、周溝内からは二重口縁の壺形埴輪が出土している。

深田遺跡の南2.1kmには余り田遺跡(Ⅱ区)が所在し、河川址から9世紀後半の土師器、須恵器を中心とする遺物が多数出土し、内150点余りは墨書き土器、刻書き土器で、「日万」、「吉」、「波太」、「寺」、「火」、「内」、「乃」、「人」、記号などが底部外面、体部外面に刻まれる。余り田遺跡の北西2.2kmには奈良時代の水田址が検出された友戸遺跡が、その南東1kmには9～10世紀の土師器の壺、甕が出土した芋字遺跡が所在する。

深田遺跡の北西約2.0kmの大字系原には倉岡城、南約1.8kmの位置の大字浮田に石塚城、高蝉城が所在する。

【註】

- 1) 2001年報告予定

【参考文献】

- 宮崎市教育委員会 「石ノ迫第2遺跡」 1999
宮崎市教育委員会 「史跡生日古墳群 一保存整備事業 発掘調査概要報告書I一」 2000
宮崎県 「宮崎県史」 資料編考古1 1989
宮崎県 「宮崎県史」 資料編考古2 1993
宮崎県 「宮崎県史」 通史編古代2 1998
宮崎県埋蔵文化財センター 「余り田遺跡」 1997

第1図 深田遺跡位置図





第2図 深田遺跡周辺図

第Ⅱ章 調査の結果

第1節 調査の概要

深出遺跡は宮崎市大字跡江字深田4306番地に所在し、発掘調査は平成11年5月10日～平成11年10月8日までの期間実施した。発掘調査以前は畑地であった。

調査の行われた平成11年度の夏季は例年になく雨の多い年で、調査期間中も幾度となく調査区が多雨のため水没してしまい作業予定が大幅に狂ってしまった他、遺構の壁、セクション用ベルトの崩壊も著しかった。

調査は北側から伸びる小丘陵の東側を中心に行われ、北側からA区、B区、C区と設定し、尾根の東側に立地する南北約60m、東西約10mのテラス（標高8.5～9.5m）をD区と設定した。

A区の調査（第3・4図）

全調査区北側に立地し、ほぼ平坦になる。耕作による削平が著しく、表土除去後、基本層序V層（第5図参照）が露出しており、その面での遺構検出を行った。調査の結果、調査区中央を南北に溝状造構が検出された。

B区の調査（第3・4図）

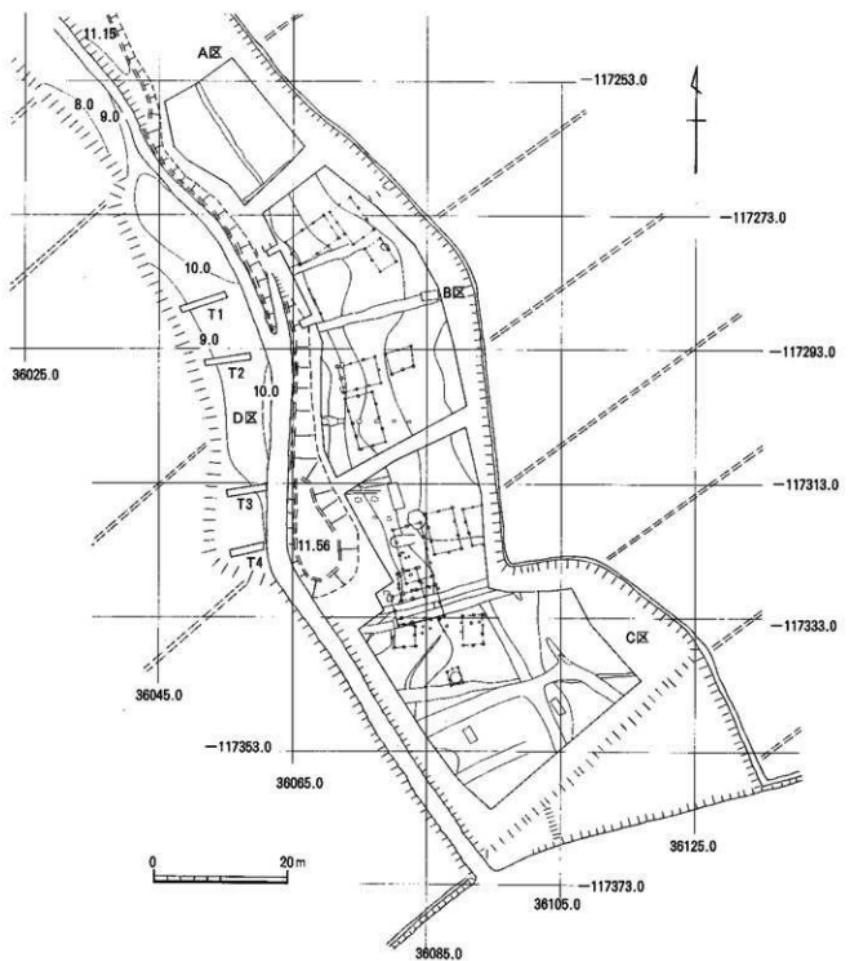
全調査区中央に立地し、調査区北西側から南東に向かって傾斜する。土層の残りは比較的良好で、基本層序と同じ堆積状況が見られた。調査の結果、Ⅲ層上面で掘立柱建物、土坑、溝状遺構が検出され、掘立柱建物は調査区北側で3棟、南側で3棟検出された。また、IV層は遺物包含層となっており、標高の低くなる調査区南東側で土師器、須恵器が数十点出土した。

C区の調査（第3・5図）

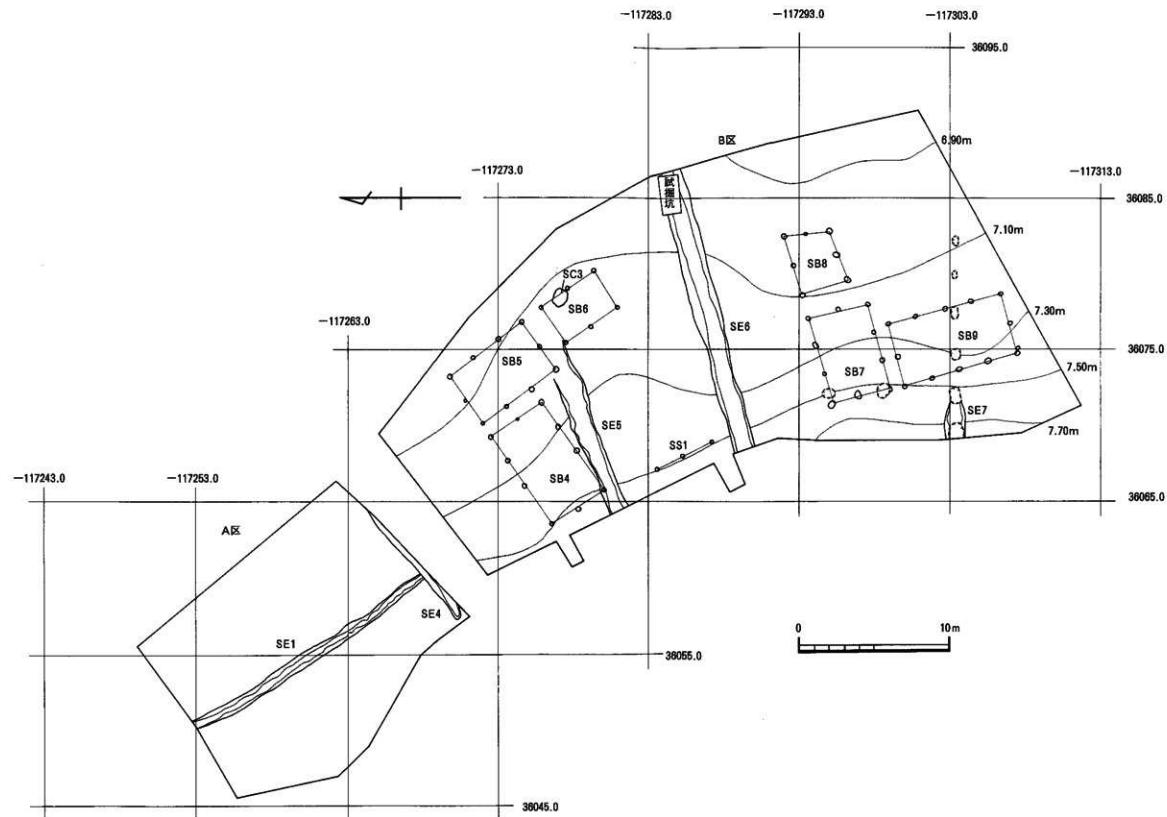
全調査区南側に立地する。調査区の北側と南側（11号溝状造構を境として）では旧地形の状況、土層の残存状況が異なっており、調査区北側半分では南西から北東に向かって傾斜し、南側半分ではほぼ平坦となっている。調査区北側においては土層の残りが比較的良好で、南側では対照的に削平が著しく西側の一部でⅢ層以下の堆積が見られたほかは表土除去後V層が露出していた。調査の結果、掘立柱建物、土坑、溝状遺構が検出された。掘立柱建物は調査区北側で検出された5棟のうち4棟がⅢ層上面で検出され、1棟がV層上面で検出された。また、V層では土坑が1基検出されている。南側では掘立柱建物3棟検出されたが、先述したとおり、削平が著しかったため、検出面での時期差は確認できなかった。調査区北側で安定して堆積がみられたIV層は遺物包含層となっており、標高の低くなる調査区北東側で土師器、須恵器が多数出土した。

D区の調査（第3図）

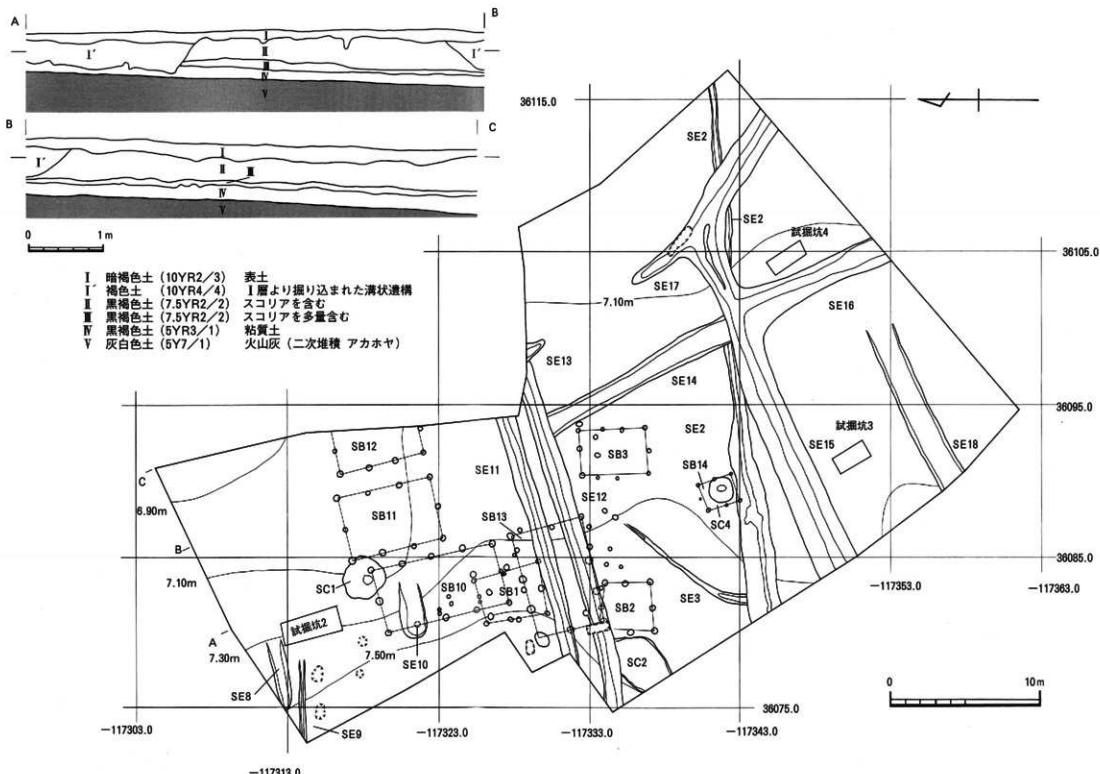
A～C区と小丘陵を挟んだ西側に立地する。当初、調査対象とはしていなかったが、雑草除去後、現況で人為的なテラスが確認されたため、幅1.0m、長さ5.0～7.0mのトレーチを4本設定した。その結果、表土除去後V層が露出しており、その面での遺構検出を図ったが遺構は確認されなかった。よって、近年に耕作のために成形された一郭と考えられる。



第3図 深田遺跡調査区全体図



第4図 深田遺跡A区、B区構造配置図 (1/250)



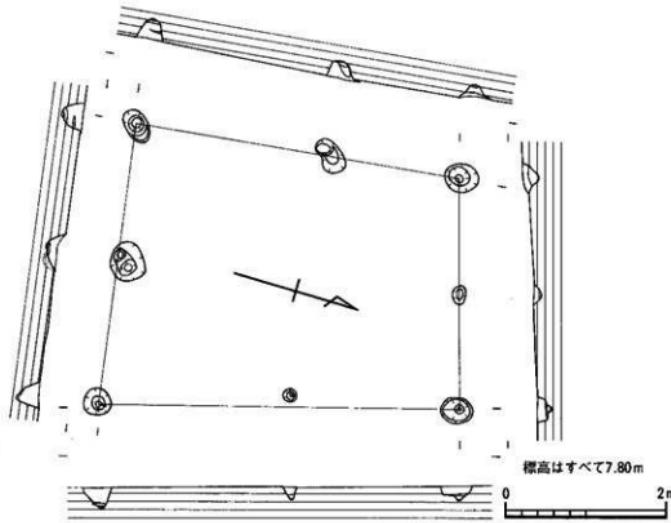
第5図 深田遺跡C区遺構配置図 (1/250)、C区北壁土層断面図 (1/50)

第2節 遺構と遺物

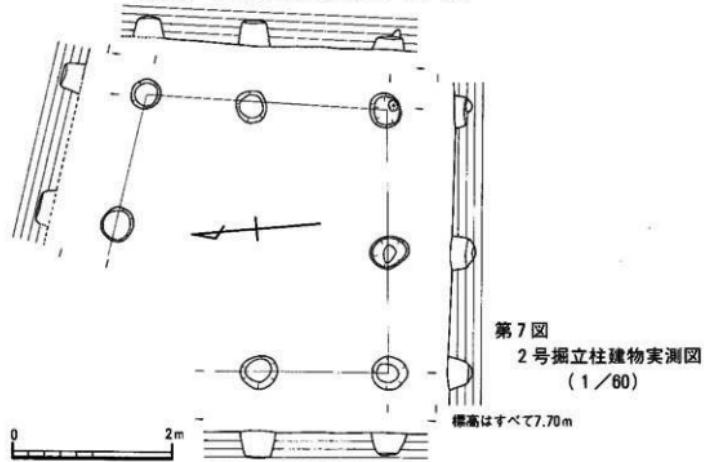
(1) 堀立柱建物と出土遺物

1号堀立柱建物（第6図）

C区南側で検出された。梁行2間（2.85～3.50m）、桁行2間（4.10～4.45m）、深さ10～30cmを測る。棟方向はN 9° Wをとる。埋土は若干粘性を帯びる黒色土である。



第6図 1号堀立柱建物実測図 (1/60)



第7図
2号堀立柱建物実測図
(1/60)

遺物は土師器の小破片が埋土中から出土している。

2号掘立柱建物（第7図）

C区南側で検出された。梁行2間（3.10m）、桁行2間（3.30m）、深さ17~34cmを測る。棟方向はN4°Eをとる。埋土は若干粘性を帯びる黒色土である。

遺物は土師器の小破片が埋土中から出土している。

3号掘立柱建物（第8図）

C区南側で検出され、12号溝状遺構に切られる。梁行2間（3.05m）、桁行3間（4.40m）、深さ15~35cmを測る。棟方向はN29°Eをとる。埋土は若干粘性を帯びる黒色土である。

遺物は土師器の壺、坏、須恵器の壺の小破片が埋土中から出土している。

4号掘立柱建物（第9図）

B区北側で検出された。梁行2間（4.00~4.10m）、桁行3間（7.00m）、深さ3~57cmを測る。梁行両側の中間の柱穴は両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN62°Eをとる。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は磁器の破片が埋土中から数点出土している。

5号掘立柱建物（第10図）

B区北側で検出された。梁行2間（3.70~3.90m）、桁行3間（5.95m）、深さ14~45cmを測る。梁行南側の中間の柱穴は両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN29°Wをとり、4号掘立柱建物に直行する状態で構築される。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は出土していない。

6号掘立柱建物（第11図）

B区北側で検出された。梁行1間（2.90m）、桁行3間（4.05~4.20m）、深さ19~29cmを測る。棟方向はN25°Wをとる。4号掘立柱建物に直行し、5号掘立柱建物に平行する状態で構築され、建物東壁付近で3号土坑が検出された。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は出土していない。

7号掘立柱建物（第12図）

B区南側で検出され、南西角柱穴を攪乱に切られる。梁行2間（3.80~4.10m）、桁行3間（5.65~5.75m）、深さ17~73cmを測る。梁行両側の中間の柱穴は両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN83°Eをとる。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は土師器の小破片、拳大の礫が埋土中から出土している。

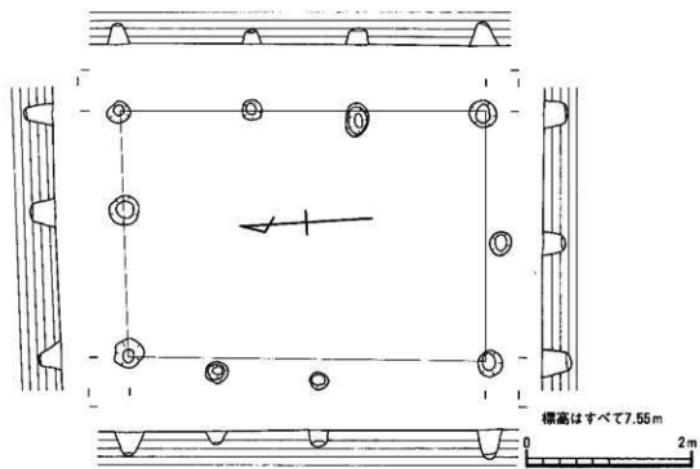
8号掘立柱建物（第13図）

B区南側で検出された。梁行2間（3.10m）、桁行2間（3.50~4.00m）、深さ5~30cmを測り、梁行東側の中間の柱穴は両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN83°Eをとり、7号掘立柱建物に平行する状態で構築される。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

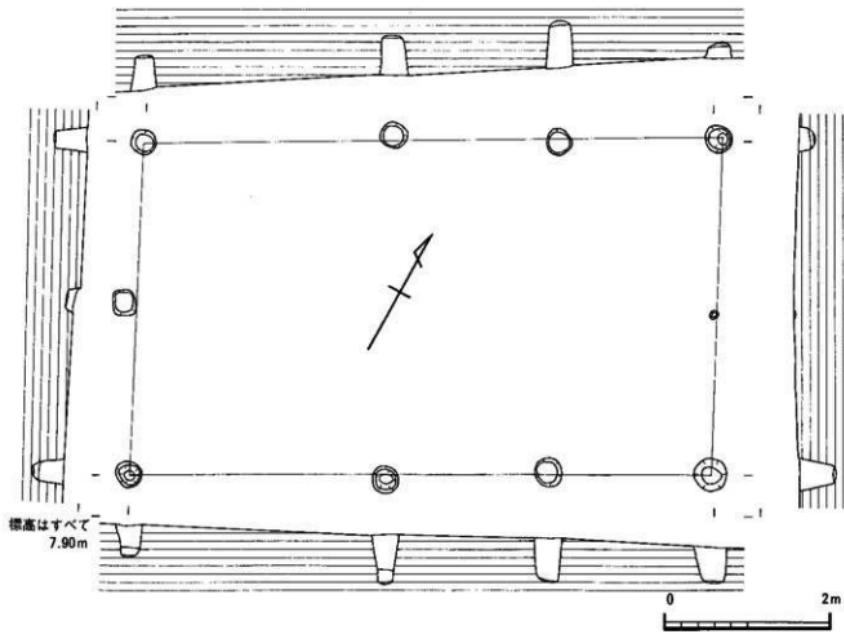
遺物は出土していない。

9号掘立柱建物（第14図）

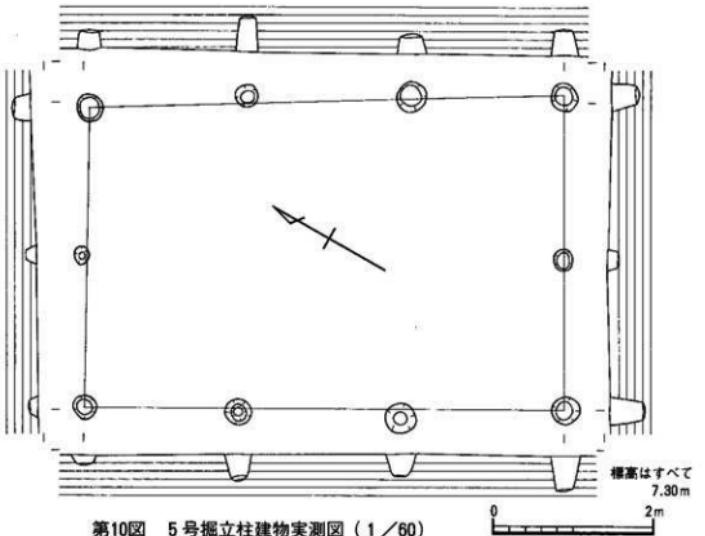
B区南側で検出された。梁行2間（4.10~4.20m）、桁行4間（7.65~7.75m）、深さ15~65cm



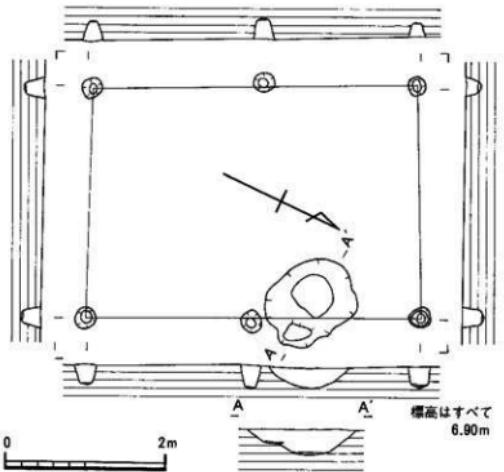
第8図 3号掘立柱建物実測図 (1/60)



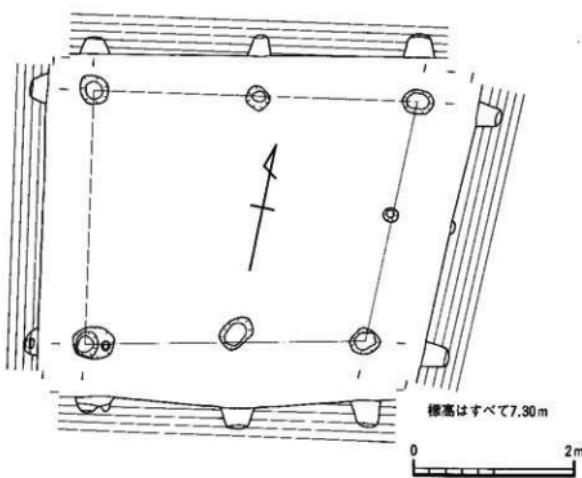
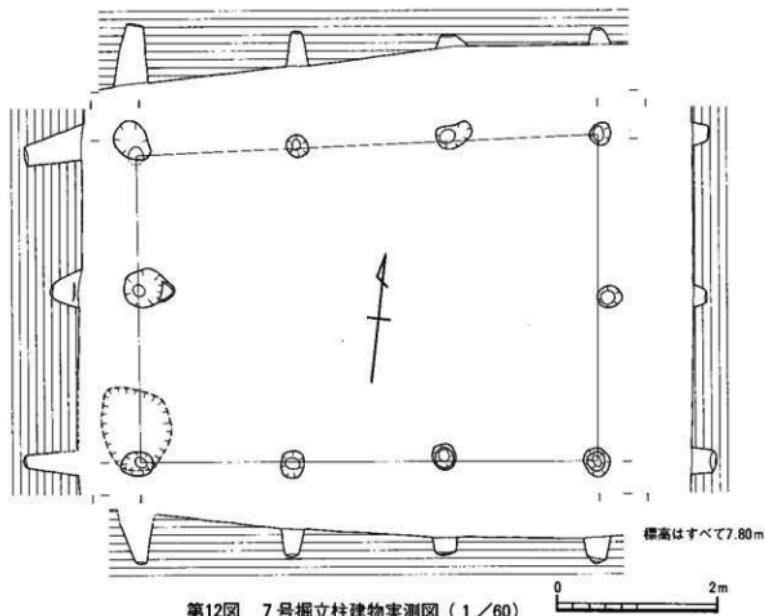
第9図 4号掘立柱建物実測図 (1/60)



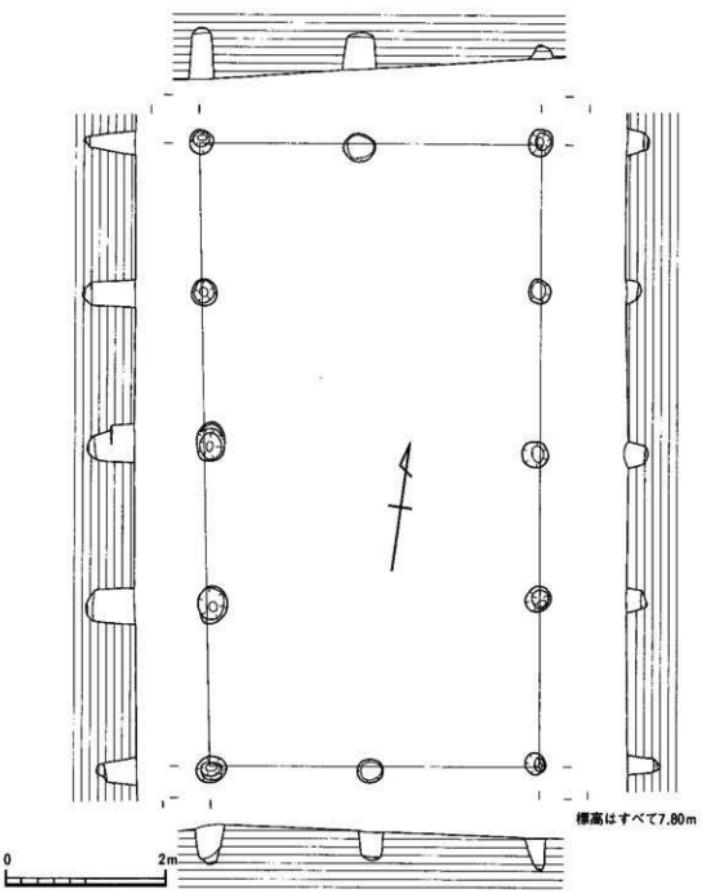
第10図 5号掘立柱建物実測図 (1/60)



第11図 6号掘立柱建物、3号土坑実測図 (1/60)



第13図 8号掘立柱建物実測図



第14図 9号掘立柱建物実測図 (1/60)

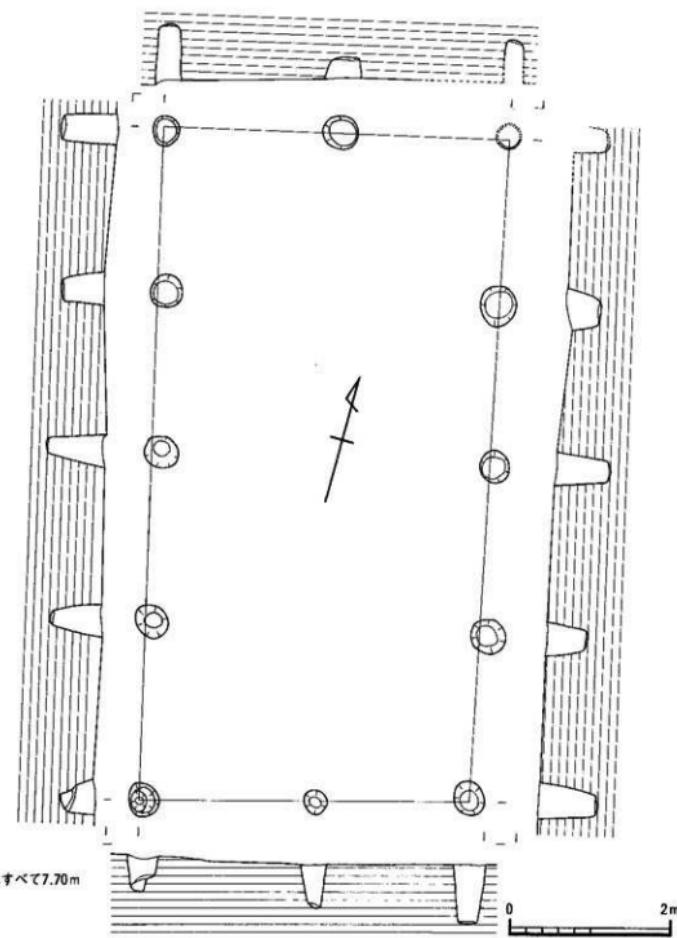
を測り、梁行南側の中間の柱穴は両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN 8° Wをとり、7号、8号掘立柱建物に直行する状態で構築される。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は出土していない。

10号掘立柱建物（第15図）

C区北側で検出された。梁行2間(4.10~4.25m)、桁行4間(8.25m)、深さ25~88cmを測り、梁行北側の中間の柱穴は両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN 12° Wをとる。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は土師器の壺の小破片が埋土中から出土している。



第15図 10号掘立柱建物実測図 (1/60)

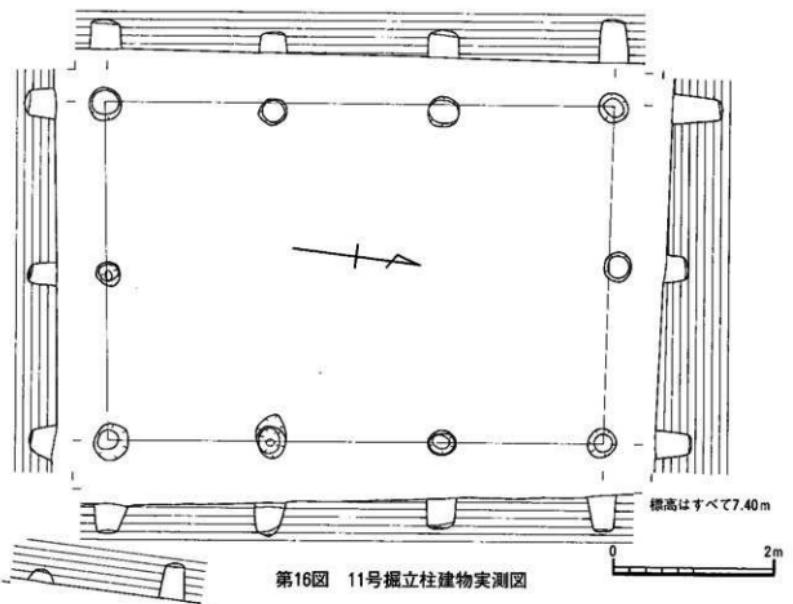
11号掘立柱建物（第16図）

C区北側で検出された。梁行2間(4.15~4.20m)、桁行4間(6.15~6.30m)、深さ26~57cmを測り、梁行北側の中間の柱穴は両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN 7° Wをとり、10号掘立柱建物に平行する状態で構築される。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

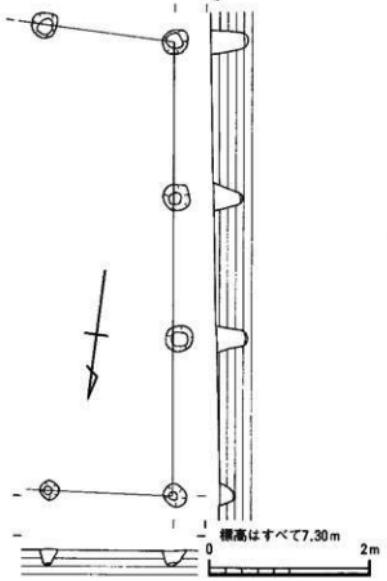
遺物は陶器の碗が埋土中から出土している。

12号掘立柱建物（第17図）

C区北側で検出された。梁行2間以上(1.60m以上)、桁行3間(5.65m)、深さ15~45cmを測る。



第16図 11号掘立柱建物実測図



第17図 12号掘立柱建物実測図

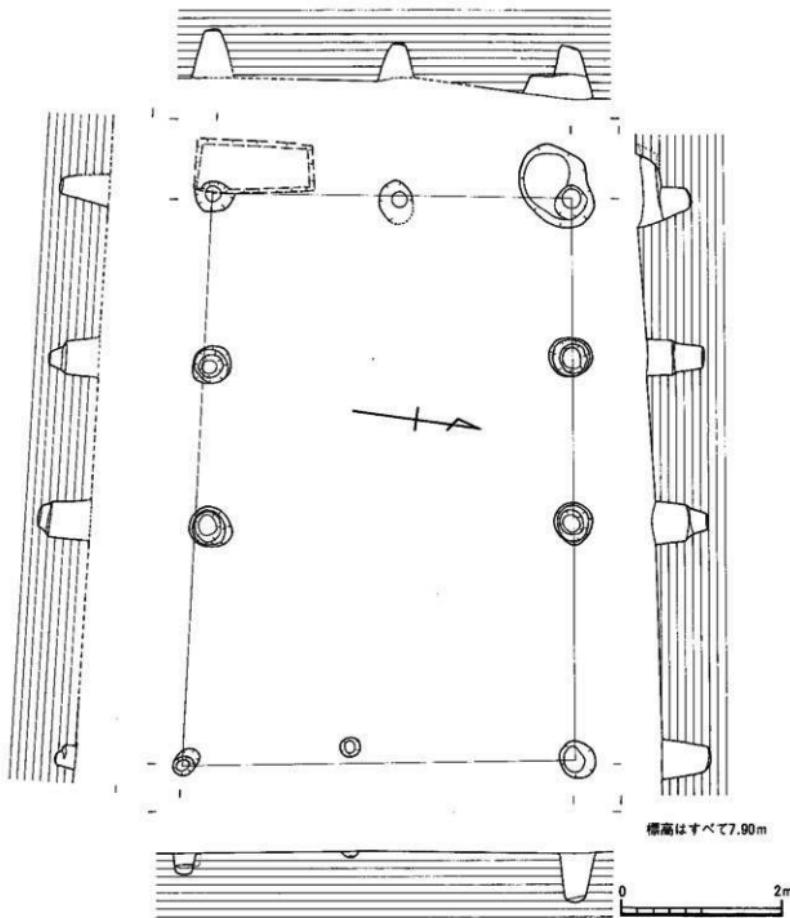
棟方向はN 8° Wをとり、10号、11号掘立柱建物に平行する状態で構築される。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は土師器の小破片が埋土中から出土している。

13号掘立柱建物（第18図）

C区中央で検出され、12号溝状遺構に切られ、南西角の柱穴を擾乱に切られる。梁行2間(4.50~4.85m)、桁行4間(6.90~7.10m)、深さ5~72cmを測り、梁行両側の中間の柱穴は両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN82° Eをとり、10号、11号、12号掘立柱建物に直行する状態で構築される。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は土師器の小破片が埋土中から出



第18図 13号掘立柱建物実測図

土している。

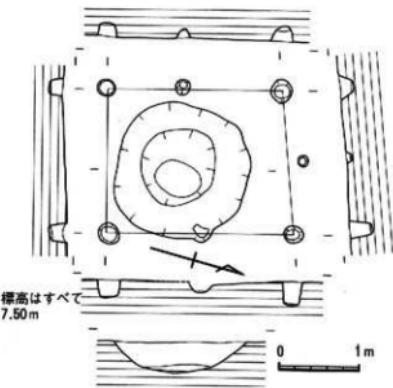
14号掘立柱建物（第19図）

C区南側で検出され、南西角の柱穴が2号溝状造構を切る。建物中央から4号土坑が検出された。梁行2間（1.80m）、桁行4間（2.20～2.30m）、深さ10～32cmを測り、三辺において中間の柱穴が両側柱穴に比べ浅くなる。棟方向はN15°をとり、10号、11号、12号掘立柱建物に平行する状態で構築される。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

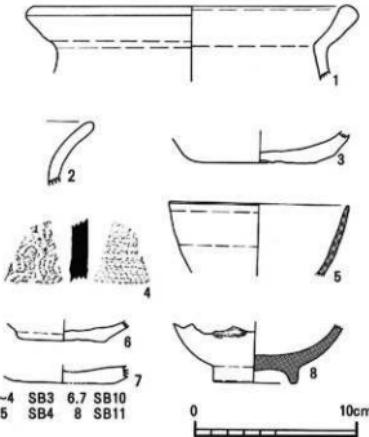
遺物は出土していない。

掘立柱建物出土遺物（第20図）

1～4は3号掘立柱建物出土遺物である。1～3は土師器で、1、2は壺の口縁部で、1は端部が肥厚する。3は壺の底部である。4は須恵器で、壺もしくは壺の胴部である。



第19図 14号掘立柱建物、
4号土坑実測図 (1/60)



第20図 掘立柱建物出土遺物 (1/3)

5は4号掘立柱建物出土遺物である。磁器碗で灰釉を施す。

6、7は10号掘立柱建物出土遺物で、土師器の坏である。6は底部でロクロ切り離し部分が円盤状に残る。

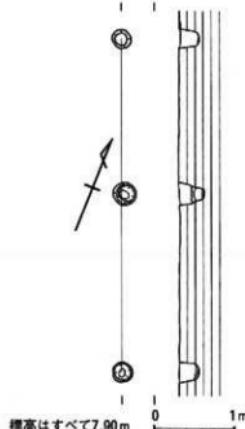
8は11号掘立柱建物出土遺物で、陶器碗である。全体に透明釉を胴部の一部に緑釉を施す。疊付けは露胎である。

(2) 檻列

1号檻列 (第21図)

B区北側で検出された。遺存柱穴3本、柱穴間1.9~2.2m、深さ25~32cmを測り、4号掘立柱建物に平行する状態で構築されるため、4号掘立柱建物に伴う施設と考えられる。当初、遺存柱穴が3本のみであったため、掘立柱建物の可能性も考えられることから、西側に控える小丘陵に向かい一部調査区の拡張を試みたが、柱穴は検出されなかった。埋土は白色のブロックを含む黒色粘質土である。

遺物は出土していない。



第21図 檻列実測図 (1/60)

(3) 土坑と出土遺物

1号土坑 (第22図)

C区北側で検出された。円形プランを呈し、直径2.75~2.85m、底径45~50cm、深さ175cmを測る。検出面から40~50cmの

位置で傾斜変換がみられ、断面はキャリバー形を呈する。埋土はⅠ層粘性を帯びる黒色土、Ⅱ層暗褐色粘質土、Ⅲ層褐色粘質土、Ⅳ層白色ブロックを含む褐色粘質土である。

遺物は検出面において土師器の甕、壺、須恵器の壺身、壺などが破片の状態で、土坑を囲んで著しく多く出土しており、埋土中からは土師器の壺がⅠ～Ⅳ層すべてで出土しているが、Ⅲ層において出土量のピークが見られる。また、Ⅳ層から瓢箪が出土している。

2号土坑（第23図）

C区南側で検出された。最大幅3.80m以上、深さ10cmを測り、不定形プランを呈する。

北西側が調査区壁に掛かり、北側を12号溝状遺構に切られる。埋土は粘性を帯びる黒色土である。

遺物は埋土中から土師器の碎片が僅かに出土している。

3号土坑（第11図）

B区北側で検出された。最大幅1.20m、深さ32cmを測り、不定形プランを呈し、東側で一段のテラスを持つ。6号掘立柱建物東壁付近で検出されており、埋土は白色ブロックを含む黒色粘質土である。6号掘立柱建物と埋土状況が似ることから、ほぼ同時期のものと考えられる。

遺物は出土していない。

4号土坑（第19図）

C区南側で検出された。最大幅1.80m、深さ40cmを測り、円形プランを呈する。14号掘立柱建物に囲まれる状態で検出されており、埋土は白色ブロックを含む黒色粘質土である。14号掘立柱建物と埋土状況が似ることから、ほぼ同時期のものと考えられる。

遺物は埋土中から土師器の碎片が僅かに出土している。

土坑出土遺物（第24・25図）

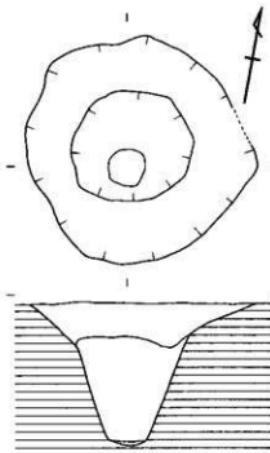
9～45は1号土坑出土遺物である。

9～27は1号土坑検出面出土で、9～24は土師器である。9～11は甕で、9は口縁部が直線的に外反し中胴になる。12～24は壺である。12～15は底径が比較的大きくなる。16～19は底径が比較的狭くなり、16は器高が高くなる。17は底部でロクロ切り離し部分が円盤状に残る。20は器高が高くなり、円盤状の高台になる。21は外方向に短く外反する高台を持つ。22は短く開き端部が丸くなる高台を持つ。25、26は須恵器で、25は甕もしくは壺の胴部、26は壺身である。27は砂岩製の敲石で表面、側面に敲打痕が残る。最大長13.6cm、最大幅5.5cm、最大厚4.3cm、重量475gを測る。28は軽石製品で両側面に浅い抉りが見られる。最大長7.7cm、最大幅5.1cm、最大厚3.5cm、重量42.4gを測る。

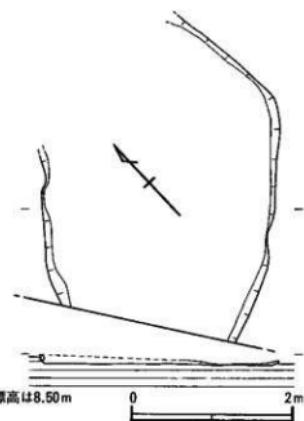
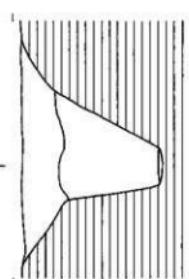
29、30は1号土坑Ⅰ層出土で土師器の壺である。29は底径が比較的広くなる。30は底径が比較的狭くなり、底部でロクロ切り離し部分が円盤状に残る。

31～34は1号土坑Ⅱ層出土で土師器の壺である。31、32は底径が比較的広くなり、器高が低い。33は高台が直線的に伸びる。

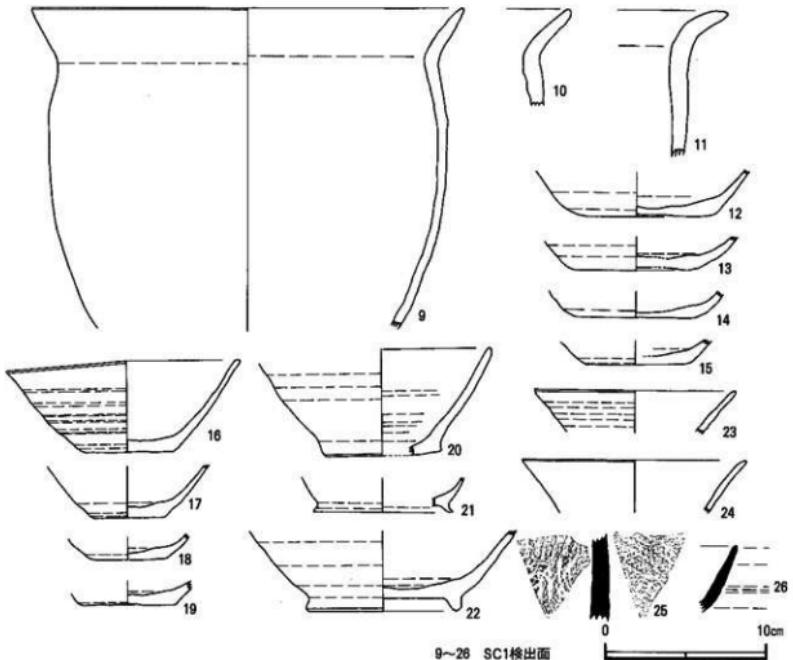
35～44は1号土坑Ⅲ層出土で土師器である。35～42は壺で、35は底径が比較的狭く、器高が低くなり、底部でロクロ切り離し部分が円盤状に残る。体部は僅かに内湾し、口縁部で開く。



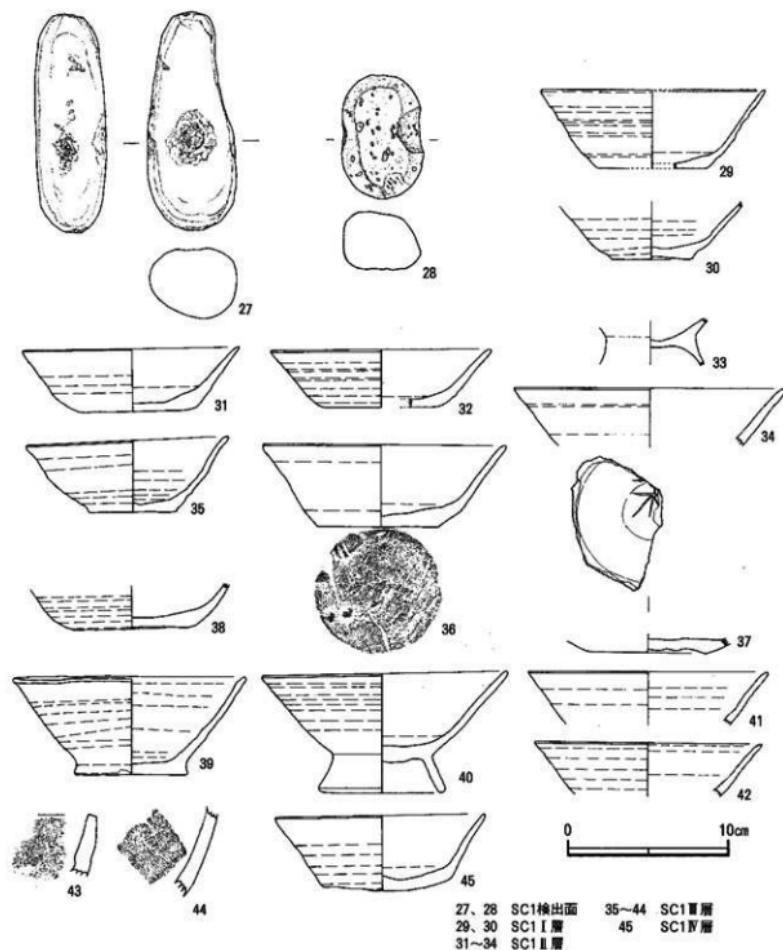
第22図 1号土坑実測図 (1/60)



第23図 2号土坑実測図 (1/60)



第24図 土坑出土遺物① (1/3)



第25図 土坑出土遺物② (1/3)

36~38は比較的底径が広くなり、37は器高が低く、底部でロクロ切り離し部分が円盤状に残る。37は底部内面に「禾」の字が刻まれる。39は器高が高くなり、円盤状の高台になる。40は器高が高くなり、高台が直線的に伸び、端部が丸くなる。43、44は布痕土器の体部である。

45は1号土坑Ⅳ層出土で土師器の壊で、器高がやや低くなり、体部が直線的に外反する。

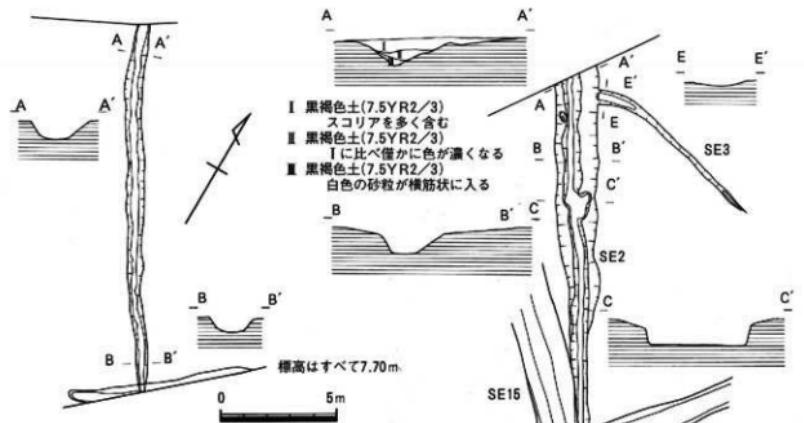
(4) 溝状遺構と出土遺物

1号溝状遺構（第26図）

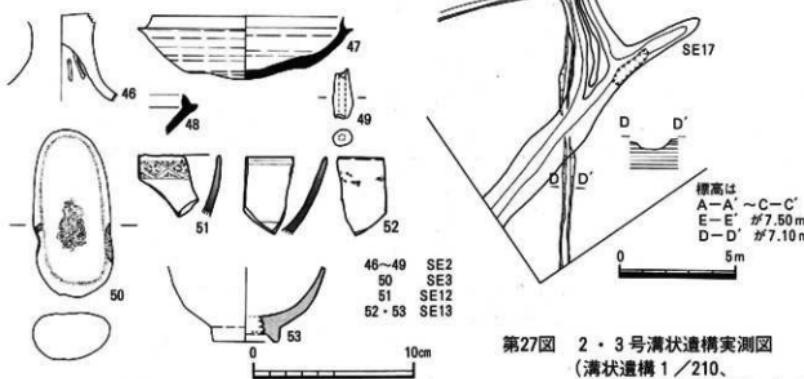
A区を南北に走る。全長18.5m以上、幅0.4~1.0m、深さ13~22cmを測り、断面形は逆台形を呈する。底面は北から南に向かい傾斜する。埋土は僅かにスコリアを含む黒褐色土である。両側で4号溝状遺構に切られ、南北両側が調査区間に掛かる。

遺物は埋土中から土器器の碎片が僅かに出土している。

2号溝状遺構（第27図）



第26図 1号溝状遺構実測図
(溝状遺構 1 / 210 断面図 1 / 60)



第27図 2・3号溝状遺構実測図
(溝状遺構 1 / 210、
土層断面図、断面図 1 / 60)

第28図 溝状遺構出土遺物 (1 / 3)

C区南側を東西に走る。全長36.0m以上、幅0.4~1.3m、深さ15~33cmを測り、断面形は西側部分で傾斜変換がみられる他は逆台形である。底面は北から南に向かい傾斜する。南側で4号溝状遺構に切られ、東西両側が調査区壁に掛かる。

遺物は底面、壁面から土師器の高壙、須恵器の壺身が出土しているほか埋土中から土師器片が僅かに出土している。

3号溝状遺構（第27図）

C区南側を東西に僅かに弧を描きながら走る。全長9.5m、幅0.2~0.7m、深さ2~3cmを測り、断面形は皿形である。底面は北から南に向かい僅かに傾斜し、北側では溝が終息する。埋土は僅かにスコリアを含む黒褐色土である。南側で2号溝状遺構に合流する。

遺物は埋土中から土師器碎片、敲石が僅かに出土している。

4号溝状遺構（第4図）

A区南側を東西に走る。全長9.2m以上、幅0.4~0.6m、深さ10cmを測り、断面形は皿形である。底面は西から東に向かい傾斜し、西側では溝が終息し、溝の大部分は調査区壁にかかる。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。中央で1号溝状遺構を切る。

遺物は出土していない。

5号溝状遺構（第4図）

B区北側を東西に走る。全長11.5m以上、幅1.5~1.8m、深さ3~14cmを測り、断面形は皿形である。底面は西から東に向かい傾斜し、東側では溝が終息する。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。

遺物は埋土中から土師器片が僅かに出土している。

6号溝状遺構（第4図）

B区中央を東西に走る。全長19.0m以上、幅0.6~1.8m、深さ20~28cmを測り、断面形は皿形である。底面は西から東に向かい傾斜し、東西両側が調査区壁に掛かる。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。

遺物は埋土中から土師器片・磁器片が僅かに出土している。

7号溝状遺構（第4図）

B区南側を東西に走る。全長2.7m以上、幅0.8~1.5m、深さ12cmを測り、断面形は皿形である。西側が調査区壁に掛かり、東側は攪乱に切られる。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。

遺物は出土していない。

8号溝状遺構（第5図）

C区北側を東西に走る。全長4.6m以上、幅0.8~1.2m、深さ4~10cmを測り、断面形は皿形である。底面は西から東に向かって傾斜し、東側で溝が終息する。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。

遺物は出土していない。

9号溝状遺構（第5図）

C区北側を東西に走る。全長5.6m以上、幅0.3~0.4m、深さ4~19cmを測り、断面形はU字形である。底面は西から東に向かって傾斜し、西側は調査区壁に掛かり、東側で溝が終息する。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。

遺物は出土していない。

10号溝状遺構（第5図）

C区北側を東西に走る。全長4.7m、幅1.2~1.8m、深さ10cmを測り、断面形は皿形である。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。

遺物は出土していない。

11号溝状遺構（第5図）

C区中央を東西に走る。全長16.0m以上、幅1.0~1.4m、深さ30cmを測り、断面形はU字形である。底面は西から東に向かって傾斜し、東西両側は調査区壁に掛かる。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土に多量の白色のブロックが混入する。遺物は磁器片が出土している。

12号溝状遺構（第5図）

C区中央を東西に走り、11号溝状遺構に平行する状態で検出された。全長22.5m以上、幅1.4~1.7m、深さ20~25cmを測り、断面形はU字形である。底面は西から東に向かって傾斜し、東西両側は調査区壁に掛かり、14号溝状遺構を切る。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土に多量の白色のブロックが混入する。

遺物は磁器片が数点出土している。

13号溝状遺構（第5図）

C区南側を南北に走る。全長1.6m以上、幅0.3~1.2m、深さ2~10cmを測り、断面形は皿形である。底面は南から北に向かって傾斜し、北側は調査区壁に掛かり、南側で溝は終息する。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土に多量の白色のブロックが混入する。

遺物は磁器片、陶器片が数点出土している。

14号溝状遺構（第5図）

C区南側を南北に走る。全長13.5m以上、幅1.3~1.8m、深さ1~4cmを測り、断面形は皿形である。底面は北から南に向かって傾斜し、北側を12号溝状遺構に、南側を15号溝状遺構に切られる。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。

遺物は出土していない。

15号溝状遺構（第5図）

C区南側を東西に走り、東側で2条に分岐する。全長23.5m以上、分岐前の幅2.1~2.8m、深さ25~30cmを測り、分岐後は北側が幅0.8~1.5m、深さ15cmを測り、北側が幅0.7~1.5m、深さ12cmを測り、断面形は皿形である。底面は西から東に向かって傾斜し、西側は調査区壁に掛かり、東側で17号溝状遺構に合流する。また、中央で南側から16号溝状遺構が合流し、その北側で2号溝状遺構、14号溝状遺構を切る。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土に多量の白色のブロックが混入する。

遺物は磁器の小破片が数点出土している。

16号溝状遺構（第5図）

C区南側を南北に走る。全長9.5m以上、幅1.7~3.3m、深さ15~22cmを測り、断面形は逆台形である。底面は南から北に向かって傾斜し、南側は調査区壁に掛かり、北側で15号溝状遺構に合流する。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土に多量の白色のブロックが混入する。

遺物は出土していない。

17号溝状遺構（第5図）

C区南側を南北に走る。全長14.5m以上、幅0.7~2.1m、深さ5~22cmを測り、断面形は逆台形である。底面は北から南に向かって傾斜し、南側は調査区壁に掛かり、中央で西から15号溝状遺構が合流し、2号溝状遺構を切る。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土に多量の白色のブロックが混入する。北側に存在する13号溝状遺構の延長上に立地することから、13号溝状遺構と同一のもの可能性が考えられる。

遺物は出土していない。

18号溝状遺構（第5図）

C区南側を東西に走る。全長11.5m以上、幅1.3~2.0m、深さ1~5cmを測り、断面形は皿形である。西側は調査区壁に掛かり、東側で溝状遺構が終息する。埋土は表土に類似するしまりのない暗褐色土である。

遺物は出土していない。

溝状遺構出土遺物（第28図）

46~49は2号溝状遺構出土遺物である。46、49は土師器である。46は高壺の脚部で、高さが低く、裾に向かいハの字に外反する。47、48は須恵器の壊身である。49は土錘で、両端が欠損しており、現存で最大長3.1cm、最大幅1.2cm、孔径5.5mmを測る。

50は3号溝状遺構出土遺物である、砂岩製の敲石で、表面、両側面に敲打痕が残る。最大長10.6cm、最大幅4.8cm、最大厚3.0cm、重量240gを測る。

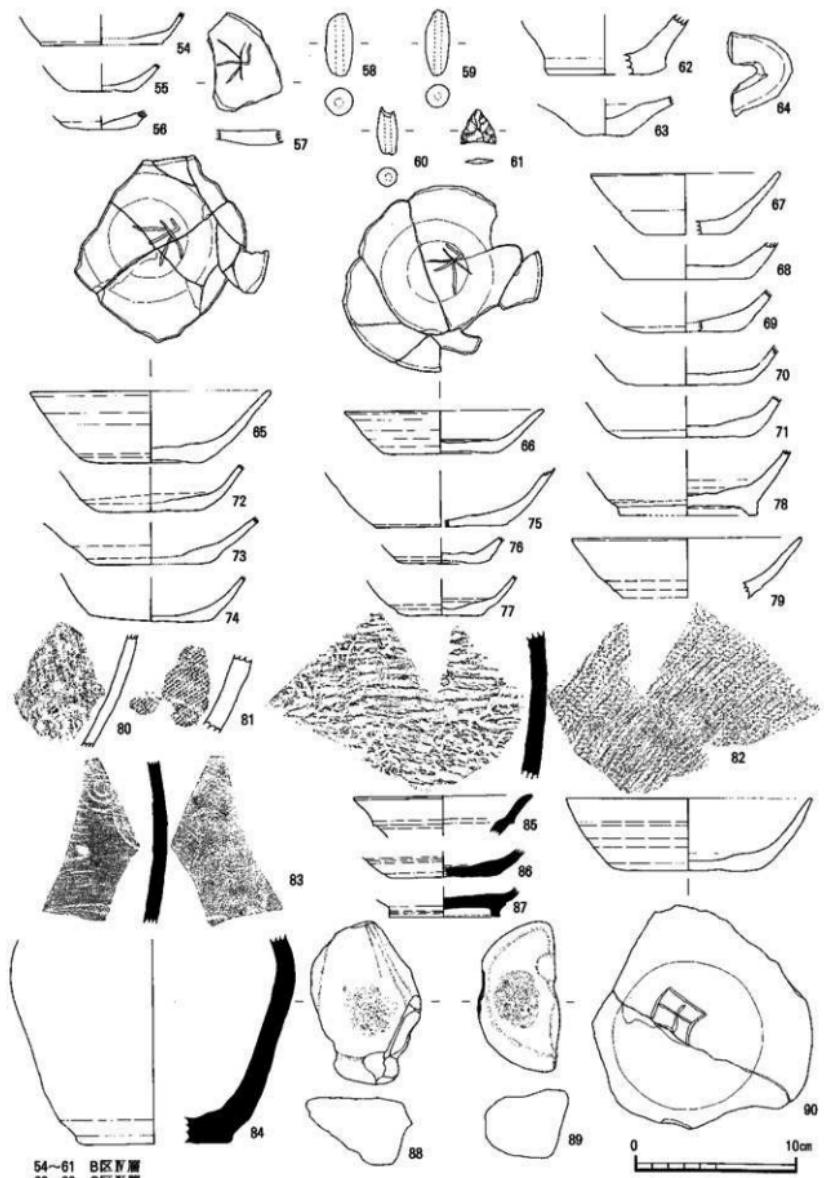
51は12号溝状遺構出土遺物で、肥前産染付磁器碗で内外面ともに透明釉を施し、口縁内面に、四方櫛文を描く。

52、53は13号溝状遺構出土遺物で、52は肥前産染付磁器碗で内外面ともに透明釉を施し、口縁内面に2条、底部内面に1条圓線を、体部外面に不明染付を描く。53は陶器碗で、内面に透明釉、外面に綠釉を施し、外面のそれ以下は露胎である。

(5) 遺物包含層出土遺物（第29図）

54~61はB区IV層出土遺物である。54~60は土師器である。54~57は壺で、54は底部の器壁が薄く、底径が比較的大きくなり、ロクロ切り離し部分が円盤状に残る。55、56は底径が比較的狭くなる。57は底部内面に「禾」の字が刻まれる。58~60は土錘で、それぞれ現存で58が最大長3.85cm、最大幅1.7cm、孔径4.5mm、59が最大長4.1cm、最大幅1.4cm、孔径4.0mm、60が最大長3.0cm、最大幅1.2cm、孔径4.0mmを測る。61は砂岩製の石鏃で、基部の抉りが僅かに見られる。最大長2.0cm、最大幅2.2cm、最大厚2.5mm、重量0.99gを測る。

62~89はC区IV層出土遺物である。62~81は土師器である。62は壺の底部である。63は壺の



第29図 B区IV層、C区IV層、試掘坑2

底部で、僅かに上底となる。64は壺の輪状把手である。65～79は壺である。65～75は比較的底部径が広くなり、66は器高が低くなる。66、67は底部内面に「禾」の字が刻まれ、文字周囲に粘土の弛みがみられることから焼成前に刻まれたものと考えられる。75は底部の器壁が薄く、ロクロ切り離し部分が円盤状に残る。76、77は底部径が比較的狭くなり、77はロクロ切り離し部分が円盤状に残る。78は短く開き端部が平坦になる高台を持つ。80、81は布痕土器の体部である。82～87は須恵器である。82、83は壺の胴部である。84は壺で、厚手の底部を持ち、胴部の上位で丸みを帯び、細い頸部を持つと考えられる。85は甌の口縁部で一段の稜が見られる。86、87は壺身で87は短い高台を持つ。88、89は敲石で、88は砂岩製で表面中央に敲打痕が残る。最大長10.2cm、最大幅6.7cm、最大厚4.2mm、重量260gを測る。89は頁岩製で表裏面、両側面に敲打痕が残る。最大長9.4cm、最大幅5.1cm、最大厚4.3mm、重量275gを測る。

試掘出土遺物（第29図）

90は試掘出土遺物で、C区北側に設定したトレーンチ坑から出土した。土師器の壺で底径が比較的広く、器高が低い。底部外面に「田」の字が刻まれ、文字周囲に粘土の弛みがみられることがから焼成前に刻まれたものと考えられる。出土位置が1号土坑に近接していることから1号土坑に伴うものと考えられる。

出土遺物観察表 1 (土器器、須恵器)

() は反転復元後

| 番号 | 出土遺物 | 種類・器種 | 法量(cm) | | | 器面調整 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|----|--------------|----------|--------|-------|-----|--------------------------|--------------------------------|------------------------------------|-------|
| | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | |
| 1 | 3号 掘立柱建物 | 土器器 甕 | (19.7) | | | 内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ | 内面:にぶい赤褐 外面:明赤褐 | 4ミリ以下の灰白の砂粒を多く含む | |
| 2 | * | 土器器 甕 | | | | 内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ | 内面:にぶい黄褐 外面:にぶい黄褐 | 褐色の砂粒を含む | |
| 3 | * | 土器器 甕 | 7.4 | | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ・回転ケズリ | 内面:橙 外面:橙 | 細砂粒をわずかに含む | |
| 4 | * | 須恵器 甕 | | | | 内面:同心円文 外面:タキ | 内面:暗オリーブ灰 外面:灰 | 赤灰色、微細粒を少量含む | |
| 6 | 10号 掘立柱建物 | 土器器 甕 | 5.4 | | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:橙 外面:橙 | 精良で細砂粒を含み砂粒を少しあむ | |
| 7 | * | 土器器 甕 | 5.8 | | | 内面:回転ナデ 外面:不明 | 内面:橙 外面:橙 | 精良で細砂粒を含む | |
| 9 | 3号土坑 | 土器器 甕 | (27.4) | | | 内面:ナデ 外面:ナデ | 内面:橙・黄褐色・にぶい橙 外面:にぶい黄褐・にぶい橙 | 6ミリ程の灰褐色の塵をわずかに含み、無色透明の砂塵・細砂粒を多く含む | |
| 10 | * | 土器器 甕 | | | | 内面:ナデ 外面:ナデ | 内面:橙 外面:橙・にぶい黄褐 | 3ミリ以下の乳白色・碧・褐色・灰白などの砂粒を多く含む | |
| 11 | * | 土器器 甕 | | | | 内面:ハケ・ケズリ 外面:ハケ・ケズリ | 内面:灰黄褐・にぶい橙 外面:灰黄褐・にぶい黄褐 | 6ミリ以下の灰色・赤褐色の塵を含み、無色透明・黒色の光る粒を多く含む | |
| 12 | * | 土器器 甕 | (8.4) | | | 内面:回転ナデ 外面:不明 | 内面:橙 外面:橙 | 少粒を極微量含む | |
| 13 | * | 土器器 甕 | 7.6 | | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:橙 外面:橙 | 細砂粒を含む | |
| 14 | * | 土器器 甕 | 7.9 | | | 内面:ナデ 外面:回転ナデ・回転ケズリ | 内面:黄褐 外面:黄褐 | 細砂粒を少量含む | |
| 15 | * | 土器器 甕 | 6.6 | | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:橙 外面:橙 | 細砂粒を含む | |
| 16 | * | 土器器 甕 | (14.8) | 6.5 | 6.2 | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:にぶい黄褐 外面:にぶい黄褐 | ガラス質の粒子・細砂粒を含む | |
| 17 | * | 土器器 甕 | | 4.8 | | 内面:回転ナデ 外面:不明 | 内面:黄褐 外面:黄褐 | 赤褐色・灰色の砂粒及び、1ミリ以下の透明の光る粒を含む | |
| 18 | * | 土器器 甕 | | 5.0 | | 内面:回転ナデ 外面:小明 | 内面:橙 外面:橙 | 2ミリ以下の赤褐色・灰色の砂粒を含む | |
| 19 | * | 土器器 甕 | | 6.0 | | 内面:回転ナデ 外面:不明 | 内面:黄褐 外面:黄褐・一部橙 | 赤褐色の細砂粒を少量含む | |
| 20 | * | 土器器 甕 | | 5.7 | 6.6 | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:にぶい黄褐 外面:灰黃褐色・にぶい黄褐 | 光る粒・砂粒を少量含む | 円盤状高台 |
| 21 | * | 土器器 甕 | | (8.5) | | 内面:ナデ 外面:不明 | 内面:浅黄褐 外面:浅黄褐 | 赤褐色の細砂粒を少量含む | 高台 |
| 22 | * | 土器器 甕 | | 9.3 | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:橙 外面:橙 | 小さな粒子を含む | 高台 |
| 23 | * | 土器器 甕 | (12.6) | | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:にぶい橙 外面:にぶい橙 | 細砂粒を少量含む | |
| 24 | * | 土器器 甕 | (13.0) | | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:にぶい橙 外面:にぶい橙 | 細砂粒をわずかに含む | |
| 25 | * | 土器器 甕 | | | | 内面:同心円文 外面:タキ | 内面:灰色 外面:灰色 | 細砂粒を少量含む | ? |
| 26 | * | 須恵器 甕 | | | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:灰色 外面:灰色 | 2ミリ以下の砂粒をわずかに含む | |
| 29 | 1号土坑 I層 | 土器器 甕 | (13.8) | (6.6) | 4.9 | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:浅黄褐 外面:浅黄褐 | 黒っぽい細砂粒を含み、光る白っぽい粒をごく少含む | |
| 30 | * | 土器器 甕 | | 5.0 | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:浅黄褐 外面:浅黄褐 | 精良で細砂粒を含み、砂粒をわずかに含む | |
| 31 | 1号土坑 II層 | 土器器 甕 | (13.6) | (7.4) | 3.9 | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:橙・にぶい橙 外面:にぶい橙・にぶい赤褐 | にぶい赤褐の砂粒を少量と、褐色の細砂粒を多く含む | |
| 32 | * | 土器器 甕 | (13.6) | (6.8) | 3.6 | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:にぶい橙・褐灰・橙 外面:浅黄褐・黄褐 | 精良で細砂粒を含む | |
| 33 | * | 土器器 甕 | (16.9) | | | 内面:不明 外面:不明 | 内面:橙 外面:橙 | 2ミリ以下の赤褐色・灰色の砂粒を少量含む | 高台 |
| 34 | * | 土器器 甕 | (16.9) | | | 内面:回転ナデ 外面:回転ナデ | 内面:にぶい黄褐・一部灰褐 外面:にぶい黄褐 | 細砂粒を含む | |

出土遺物観察表2 (土師器、須恵器)

()は反転復元後

| 番号 | 出土遺物 | 種類・ 器種 | 法量(cm) | | | 器面調査 | 色 調 | 胎 土 | 備 考 |
|----|------------|--------------|--------|-------|-----|--------------------|--------------------------|------------------------------------|-------|
| | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | |
| 35 | 1号十坑 Ⅱ層 | 土師器 壺 | 12.6 | 5.6 | 4.7 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：明褐色 外面：明褐色 | 砂粒・細砂粒を多く含み、無色透明の微細な粒子をわずかに含む | |
| 36 | * | 土師器 壺 | (15.1) | 7.7 | 5.1 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：にぶい橙 外面：にぶい赤褐 | きめ細かい中に細砂粒を少々含む | |
| 37 | * | 土師器 壺 | | | 7.3 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：明褐色 外面：にぶい赤褐 | 透明で光る薄片をわずかに含む | 「禾」の刻 |
| 38 | * | 土師器 壺 | | | 7.4 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：橙 外面：橙・浅黄褐 | 光る粒、細砂粒を含む | |
| 39 | * | 土師器 壺 | 14.4 | 6.9 | 6.0 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：にぶい橙 外面：にぶい橙・根 | 内、外に褐色の細砂粒を多く含み、橙色の砂粒少量含む | 円盤状高台 |
| 40 | * | 土師器 壺 | 15.4 | 7.9 | 7.5 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：淡黄 外面：浅黄橙 | 砂粒や細砂粒、白っぽく光る微細粒等を含む | 高台 |
| 41 | * | 土師器 壺 | (14.9) | | | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：にぶい橙 根・一部にぶい橙 | 微細粒を少量含む | |
| 42 | * | 土師器 壺 | (14.1) | | | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 | 細砂粒を少量含む | |
| 43 | * | 土師器 布張上器 | | | | 内面：布張 外面：ユビオサエ | 内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 | 6ミリ程の褐色の繩をやや多く含む | |
| 44 | * | 土師器 布張上器 | | | | 内面：布張 外面：ユビオサエ | 内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 | 6ミリ程の褐色の繩をやや多く含む | |
| 45 | 1号十坑 Ⅳ層 | 土師器 壺 | (12.9) | 8.2 | 4.7 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 | 細砂粒、重い石粒を少量含む | |
| 46 | 2号 溝状遺構 | 土師器 高杯 | 12.0 | | 4.0 | 内面：ユビオサエ ナデ | 内面：灰白・根 外面：灰白 | 黒っぽい細砂粒をわずかに含む | |
| 47 | * | 須恵器 壺(身) | | | | 内面：ナデ 外面：ナデ | 内面：褐灰 外面：褐灰 | 細砂粒をごく少量含む | |
| 48 | * | 須恵器 壺 | | | | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：灰 外面：灰 | 稍良 | |
| 49 | * | 土師器 土錐 | | | | 内面：外面 | 内面：外面 | 稍良 | |
| 54 | A区 Ⅳ層 | 土師器 壺 | (7.6) | | | 内面：不明 外面：不明 | 内面：橙・黄灰 外面：橙・黄灰 | 黒・灰・白の細砂粒を多く含む | |
| 55 | * | 土師器 壺 | (4.0) | | | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：根・褐灰 外面：根・褐灰 | 穂立で細砂粒を含み、わずかに褐色の砂粒を含む | |
| 56 | * | 土師器 壺 | | | 4.5 | 内面：不明 外面：不明 | 内面：根 外面：にぶい橙 | 3ミリ程の赤褐色の砂粒を少量、褐灰の繩砂粒を多く含む | |
| 57 | * | 土師器 壺(刻書) | | | | 内面：不明 外面：不明 | 内面：根 外面：根 | 微細粒をわずかに含む | 「禾」の刻 |
| 58 | * | 土師器 土錐 | | | | 内面：外面 | 内面：外面 | 稍良 | |
| 59 | * | 土師器 土錐 | | | | 内面：外面 | 内面：外面 | 稍良 | |
| 60 | * | 土師器 土錐 | | | | 内面：外面 | 内面：外面 | 稍良 | |
| 62 | B区 IV層 | 土師器 壺 | 6.7 | | | 内面：ナデ 外面：ナデ | 内面：明褐色 外面：にぶい橙・褐色 | 光る粒、砂粒を多く含む | |
| 63 | * | 土師器 壺 | 2.2 | | | 内面：不明 外面：不明 | 内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 | 2ミリ以下の赤褐色・灰色の砂粒を含む | |
| 64 | * | 土師器 壺(把子) | | | | 内面：一 外面：不明 | 内面：一 外面：淡灰青・にぶい黄 | 4ミリ以下の灰色・褐色の繩・砂粒を多く含み、無色透明の光る粒子を含む | |
| 65 | * | 土師器 壺(刻書) | (15.4) | 6.6 | 4.6 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：淡黄橙 外面：淡黄橙 | 細砂粒を少々含む | 「禾」の刻 |
| 66 | * | 土師器 壺(刻書) | (12.8) | 6.8 | 2.7 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：灰褐・にぶい橙 外面：灰褐・にぶい橙 | 微小な粒をごく少量含む | 「禾」の刻 |
| 67 | * | 土師器 壺 | (12.2) | (5.3) | 4.3 | 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ | 内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 | 細砂粒を含む | |
| 68 | * | 土師器 壺 | (8.3) | | | 内面：不明 外面：不明 | 内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 | 褐灰の繩砂粒が多く含む | |
| 69 | * | 土師器 壺 | 6.3 | | | 内面：不明 外面：不明 | 内面：根・にぶい橙 外面：にぶい橙 | 細砂粒をわずかに含む | |

出土遺物観察表3 (土師器、須恵器)

()は反転復元径

| 番号 | 出土遺構 | 種類・器種 | 法量(cm) | | | 器向調整 | 色調 | 胎土 | 備考 | |
|----|-----------|-------------|--------|-------|-----|----------|--------------|----------|------------------|---------------------|
| | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | |
| 70 | B区 IV層 | 土師器 壺 | | (8.1) | | 内面 外面 | 回転ナデ 不明 | 内面 外面 | 褐灰・灰褐 にぶい橙・褐灰 | 褐色の細砂粒を多く含む |
| 71 | * | 土師器 壺 | | 8.2 | | 内面 外面 | 回転ナデ | 内面 外面 | にぶい橙 にぶい橙 | 砂粒を少し含む |
| 72 | * | 土師器 壺 | 6.5 | | | 内面 外面 | ナデ ナデ | 内面 外面 | にぶい黄 にぶい黄 | 白・灰の細砂粒をわずかに含む |
| 73 | * | 土師器 壺 | 6.7 | | | 内面 外面 | 回転ナデ | 内面 外面 | にぶい橙 にぶい黄 | 灰色の細砂粒を少量含む |
| 74 | * | 土師器 壺 | 7.7 | | | 内面 外面 | 不明 不明 | 内面 外面 | 黄橙 黄橙 | 褐色等の細砂粒を含む |
| 75 | * | 土師器 壺 | 8.5 | | | 内面 外面 | ナデ ナデ | 内面 外面 | 橙 橙 | 細砂粒を少し含む |
| 76 | * | 土師器 壺 | 5.6 | | | 内面 外面 | 回転ナデ 回転ナデ | 内面 外面 | 淡黄橙 淡黄橙 | 赤褐色・灰色の細砂粒を含む |
| 77 | * | 土師器 壺 | 5.0 | | | 内面 外面 | 不明 不明 | 内面 外面 | 淡黄橙 淡黄橙 | 赤褐色の細砂粒を少量含む |
| 78 | * | 土師器 壺 | 8.3 | | | 内面 外面 | 回転ナデ 回転ナデ | 内面 外面 | にぶい橙 灰黄 | 2ミリ以下の褐色の砂粒を少量含む |
| 79 | * | 土師器 壺 | (14.4) | | | 内面 外面 | 回転ナデ 回転ナデ | 内面 外面 | にぶい橙 にぶい橙 | 細砂粒をわずかに含む |
| 80 | * | 土師器 布施上器 | | | | 内面 外面 | ナデ・奉承 ナデ | 内面 外面 | にぶい橙 にぶい橙 | 砂礫を多く含み砂粒・細砂粒も多量に含む |
| 81 | * | 土師器 布施下器 | | | | 内面 外面 | ナデ・奉承 ナデ | 内面 外面 | にぶい橙 にぶい橙 | 砂礫を多く含み砂粒・細砂粒も多量に含む |
| 82 | * | 須恵器 壺 | | | | 内面 外面 | 青海波文 タキ | 内面 外面 | 灰 黄灰 | 細砂粒をわずかに含む |
| 83 | * | 須恵器 壺 | | | | 内面 外面 | ナデ ナデ | 内面 外面 | 灰 灰オリーブ | 黒や白の微細粒を少量含む |
| 84 | * | 須恵器 壺 | (9.2) | | | 内面 外面 | ヨコナデ ナデ | 内面 外面 | 灰 オリーブ黒 | 灰色・黒色の砂粒を含む |
| 85 | * | 土師器 壺 | (11.5) | | | 内面 外面 | ナデ ヨコナデ | 内面 外面 | オリーブ黒 オリーブ黒 | 黒や白の微細粒を少量含む |
| 86 | * | 須恵器 壺 | (6.5) | | | 内面 外面 | 回転ナデ 回転ナデ | 内面 外面 | 灰 灰黄 | 精良で細砂粒を含む |
| 87 | * | 須恵器 壺 | 6.9 | | | 内面 外面 | ナデ ナデ | 内面 外面 | 灰白 灰白 | 精良 |
| 90 | 試掘坑 | 土師器 壺 | (15.3) | 9.0 | 4.5 | 内面 外面 | ナデ ナデ | 内面 外面 | 橙 橙 | 精良 「田」の型 |

出土遺物観察表4 (陶器、磁器)

()は反転復元径

| 番号 | 出土遺構 | 種類・器種 | 法量(cm) | | | 絵付・輪葉 | 表 | | | 底面・内底 | 產地 | 備考 | | | | |
|----|----------|---------|--------|-----|----|---------------------|-----|------|-----|-------|----|--------|--|--|--|--|
| | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 文様 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 外 面 | 内 面 | 見 込 | | | | | | | |
| 5 | 4号擬立柱埴物 | 埴器 鏡 | (11.0) | | | 灰釉 | | | | | | 貰入 | | | | |
| 8 | 11号擬立柱埴物 | 陶器 鏡 | | 5.2 | | 内面 透明釉 外面 透明釉、綠繪 | | | | | | 貰入、軸剥ぎ | | | | |
| 51 | 12号清浜遺構 | 埴器 鏡 | | | | 透明釉 | | 四方摩文 | | | | 肥前 | | | | |
| 52 | 13号清浜遺構 | 埴器 鏡 | | | | 透明釉 | 不明 | 圓線 | | | | 肥前 | | | | |
| 63 | * | 陶器 鏡 | (4.0) | | | 内面 透明釉 外面 緑繪 | | | | 雷紋 | | 貰入 | | | | |

第Ⅲ章 まとめ

今回の調査ではA～C区で掘立柱建物14棟、柵列1列、土坑4基、溝状遺構18条が検出され、小丘陵北側に形成される集落が確認された。これらの時期は出土遺物から大きく3時期に分かれるものと考えられる。古い時期に設定できるものを溝状遺構を中心に、中間の時期に設定できるものは1号土坑を中心に、新しい時期に設定できるものは掘立柱建物を中心にまとめてみたい。

溝状遺構について

今回の調査で溝状遺構は計18条検出された。内4～18号溝状遺構は基本層序Ⅱ層上面での検出可能なものが多く、埋土は表土に類似するか若しくはそれに埋土に白色のブロックが多量に混入するため、時期が遡るものとは考えにくい。C区南側で検出された2・3号溝状遺構は4～18号溝状遺構とは別の埋土が堆積しており、2号溝状遺構はⅢ層からの掘り込みが想定され、埋土内にもスコリアが混入しており、高原スコリア降灰以前（11～13世紀）の構築が考えられ、溝内壁面下位から出土したTK209段階（埠上りⅠ段階）の埠身の時期を指示したい。また、2号溝状遺構との切り合いが見られなかった3号溝状遺構についても同様の時期を想定したい。また、1号溝状遺構、2号土坑についてもⅢ層からの掘り込みが考えられ、2、3号溝状遺構と同様の埋土を有するが、次段で述べる時期の埋土もほぼ同じであり、時期設定のできる遺物も出土していないことから、高原スコリア降灰以前に構築された遺溝ということまで留めておく。

1号土坑について

1号土坑は9世紀後半を中心とする遺物を包含するⅣ層以下の構築が考えられ、深さ175cmを計り、断面形はキャリバー形を呈し、遺物は壙を中心に各層から出土しており、遺物は9世紀後半に比定できる。1号土坑はその深さから井戸としての機能が想定され、実際、調査中でも底面から常に水が沸いている状態であった。また、1号土坑から出土した瓢箪は放射性炭素年代測定ではAD670年という測定結果が出ており、9世紀後半に比定される土坑の時期と誤差が生じており、この点については問題が残る。1号土坑と近似する時期に構築の考えられる遺構はC区中央部で集中して検出された1～3号掘立柱建物が挙げられる。1号掘立柱建物のみはⅣ層除去後にⅤ層上面で検出され、2、3号掘立柱建物は1号掘立柱建物と同様の埋土を有する。1～3号掘立柱建物の一群は、実測不可能な破片も含め、土師器、須恵器が比較的多く出土している。

また、1号土坑、遺物包含層であるⅣ層からは底部内面に「禾」の字が、試掘調査では底部外間に「田」の字が刻まれる壙が出土している。9世紀後半期の宮崎県内での墨書き器、刻書き器を出土遺跡は宮崎市余り田遺跡（160点）、えびの市昌明寺遺跡（150点）を始めとしてその例は少なくない。特に余り田遺跡は当遺跡から南に約2.1kmと立地、時期共にその関連性を窺わせるが、余り田遺跡出土の墨書き器、刻書き器には「禾」、「田」の文は見られず、県内を見てもそうである。今回のスポーツ公園建設に伴う発掘調査では、試掘調査を含めてその計画地内

では水田遺構は検出されなかった。しかし、遺跡東側を走る県道の改良事業に伴う3遺跡の発掘調査では高原スコリア下層から水田遺構が検出されており、時期設定はされなかったものの、同じく高原スコリア下層から検出された深田遺跡の遺構との関連性が注目でき、出土した「禾」、「田」の坏からも自ずと当時の風景を想起することが出来る。

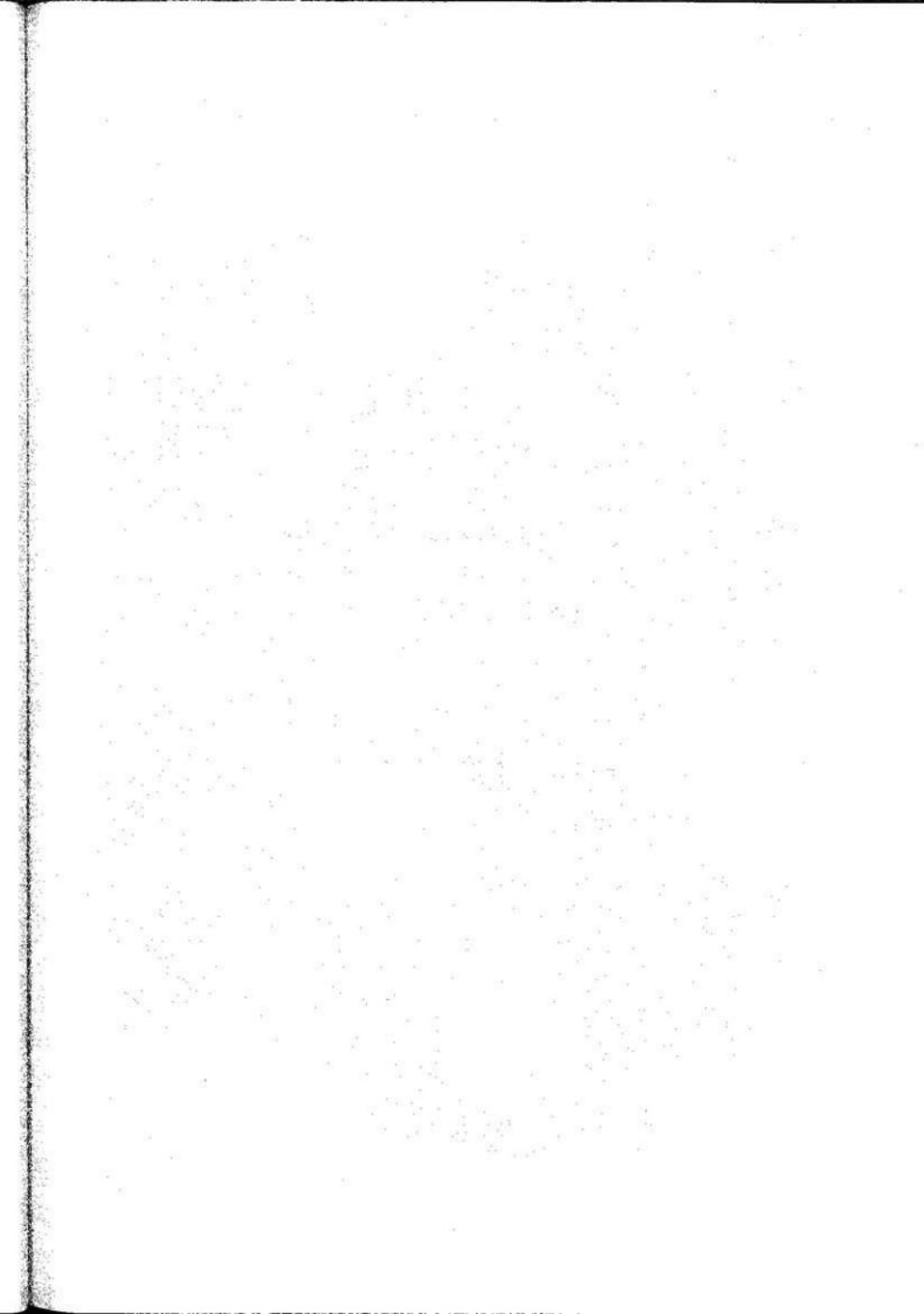
掘立柱建物について

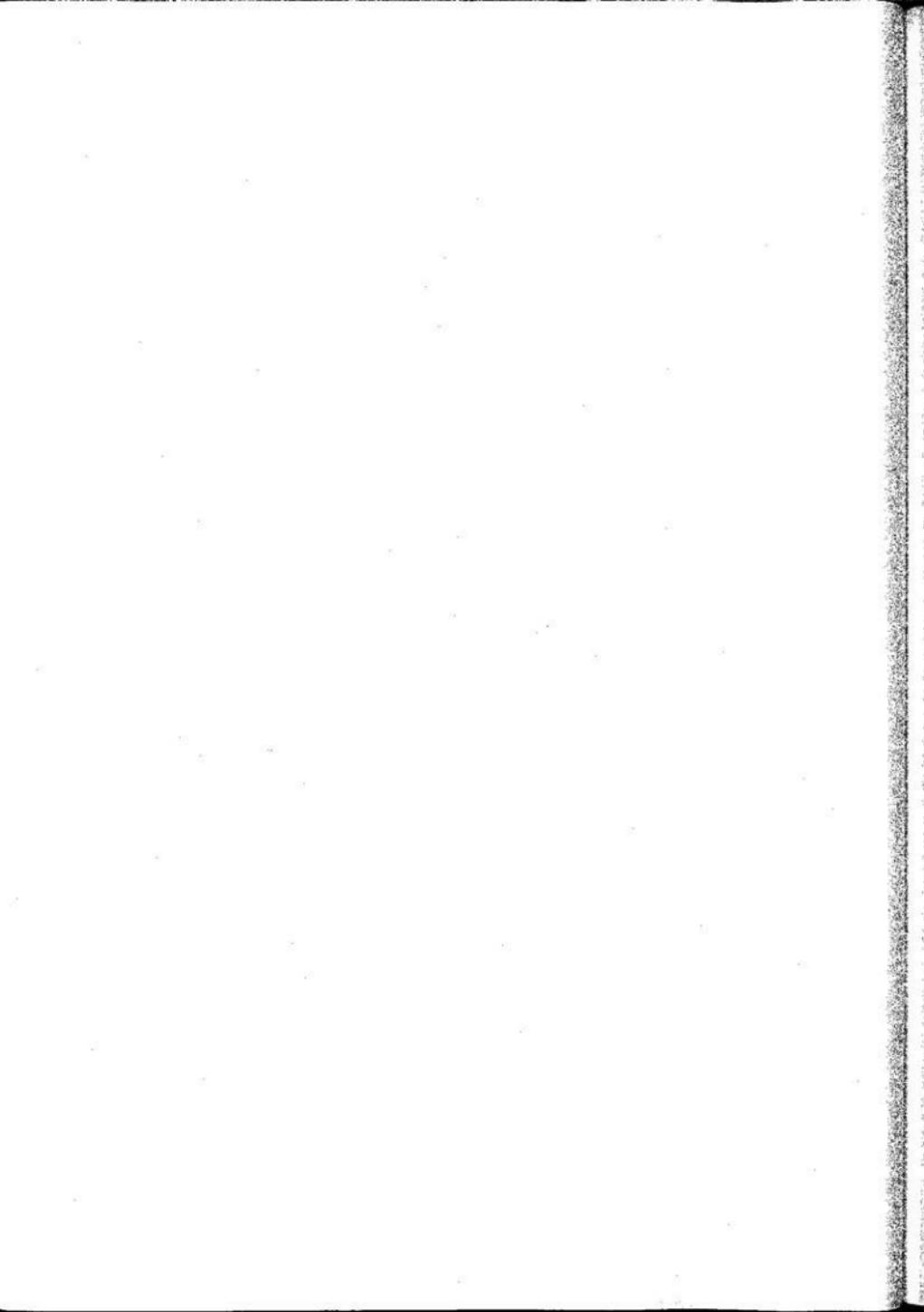
4~14号掘立柱建物は14号を除いてⅢ層上面で検出され（14号付近では表土除去後、V層が露出）、一定した埋土を有し、近接して構築されるにも係わらず全く切り合いがみられないことから同時期の存在が考えられる。遺構内からの出土遺物は著しく少ないものの4号、11号掘立柱建物の出土遺物から18世紀代の構築が考えられる。その分布は単独で立地する14号掘立柱建物を除き、3群に分けられる。北に位置する4~6号掘立柱建物で構成される群（以後、a群とする）、中間に位置する7~9号掘立柱建物で構成される群（以後、b群とする）、南に位置する10~13号掘立柱建物で構成される（以後、c群とする）がある。これらは一定の規格を持つての構築が窺え、a群では5号掘立柱建物（推定床面積21.5m²）に縦列して6号掘立柱建物（11.8m²）が構築され、5号と直交して4号掘立柱建物（29.8m²）が構築されており、L字に建物の配置が行われている。また、4号掘立柱建物の西側梁行の延長上には1号柵列が立地しており、埋土も同様のものであることからa群の一つと考えられる。それと同様にb群では7号掘立柱建物（20.2m²）に縦列して8号掘立柱建物（11.8m²）が構築され、7号に直交して9号掘立柱建物（31.1m²）が構築される。c群は4棟で構成され、10号掘立柱建物（33.2m²）に並列して11号（25.6m²）、12号（不明）が構築され、10号に直交して13号掘立柱建物（32.9m²）が構築される。また、単独で立地する14号掘立柱建物はこれらc群と離れて立地するが、10号の東側桁行、13号の東側梁行の延長上に北側桁行を併せており、同一の群と考えられる。これら、a群、b群、c群の共通する特徴として、推定床面積には若干の違いがみられるが、大型、中型、小型の掘立柱建物を基礎として群を形成しており、その並びも大型を基に大型→中型→小型となる。これらの建物群は近世における農家の住宅を想定したいが、2通りの形式が考えられる。一つは単純に直屋の母屋、厩、納屋によって構成されるもの。もう一つは別棟型とよばれるL字に配置される2棟の建物を一つの住居として利用するもので、今回の掘立柱建物では4号と5号、7号と9号、10号と13号がそれに該当する。後者は関東以西の太平洋沿岸地方に見られるが、宮崎県では旧薩摩藩領下の県西部西諸県地方にその分布域がほぼ限定され、旧延岡藩の飛地であった当遺跡周辺にその形式を用いるのはやや消極的なものとなる。

最後になりましたが、多雨の中、発掘調査に従事して頂いた作業員の皆様方に心からお礼を申し上げたいと思います。

【参考文献】

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 角田三郎『宮崎の民家』鉱脈社 1981 | 宮崎県『宮崎県史』通史編 古代2 1998 |
| 宮崎県『宮崎県史』資料編 民俗1 1992 | 宮崎県『宮崎県史』通史編 近世 1998 |
| 宮崎県埋蔵文化財センター『余り田遺跡』 1997 | 田辺昭三『須恵器大成』 1981 |
| 菱田哲郎『畿内の初期瓦生産と工人の動向』『史林』第69巻 第3号 1986 | |





図版 1 深田遺跡周辺（手前は生目古墳群）





図版2
深田遺跡全景

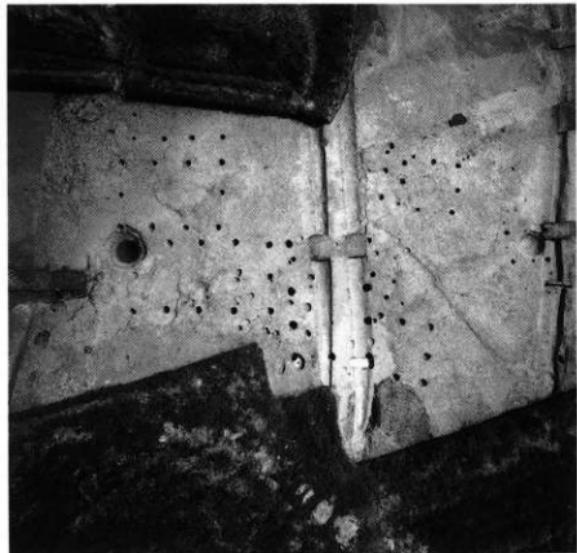


図版3
1~3号、10~14号
掘立柱建物周辺

図版4
4～6号
掘立柱建物周辺



図版5
7～9号
掘立柱建物周辺

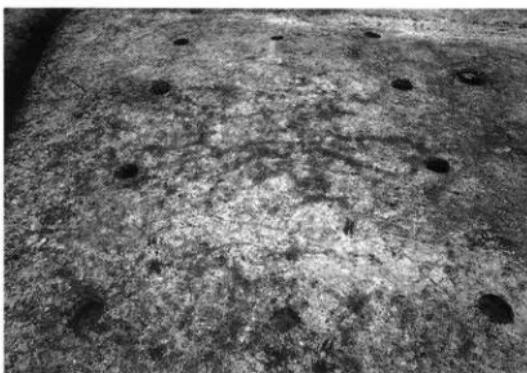




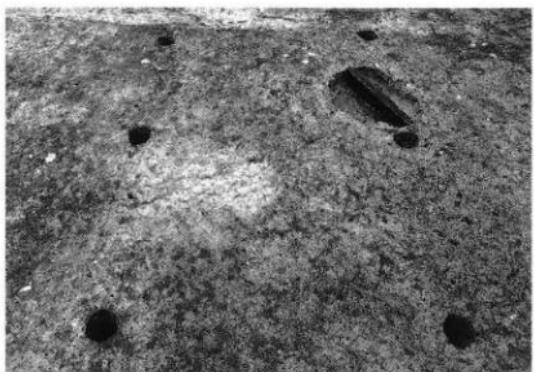
圖版 6
2号掘立柱建物



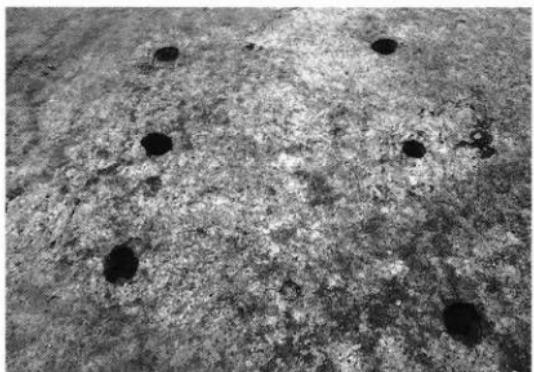
圖版 7
4号掘立柱建物



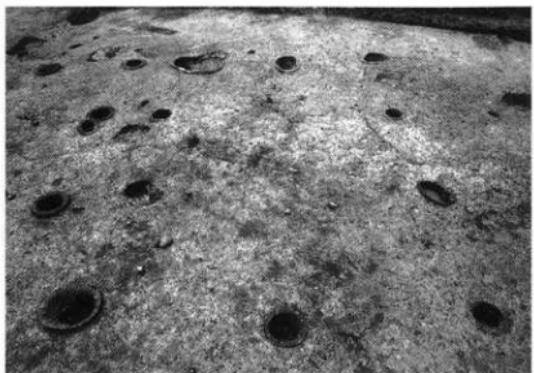
圖版 8
5号掘立柱建物



図版9
6号掘立柱建物、3号土坑



図版10
7号掘立柱建物



図版11
8号掘立柱建物



図版12
9号掘立柱建物



図版13
10号掘立柱建物



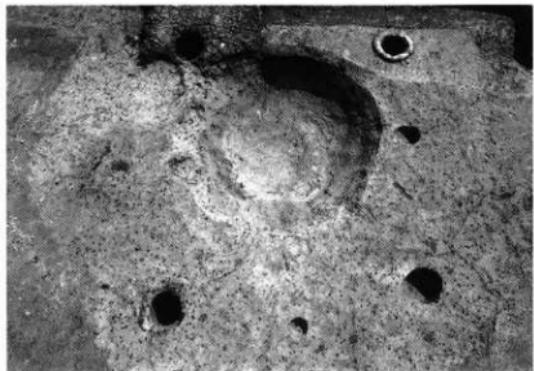
図版14
11号掘立柱建物



図版15
12号掘立柱建物



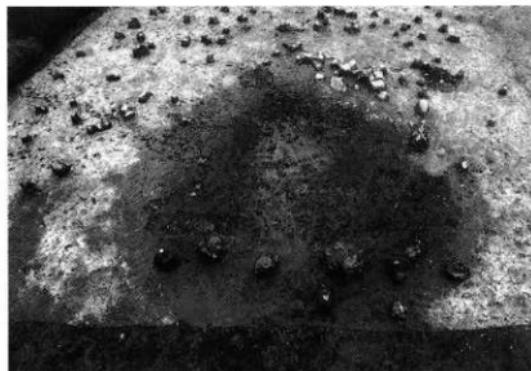
図版16
13号掘立柱建物



図版17
14号掘立柱建物、4号土坑



圖版18
1号柵列



圖版19
1号土坑檢出狀況



圖版20
1号土坑遺物出土狀況①

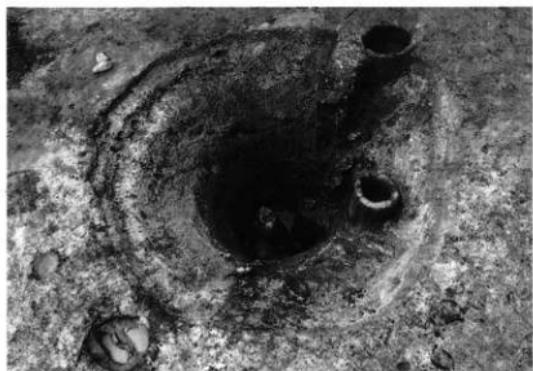
图版21

1号土坑遗物出土状况②



图版22

1号土坑遗物出土状况③



图版23

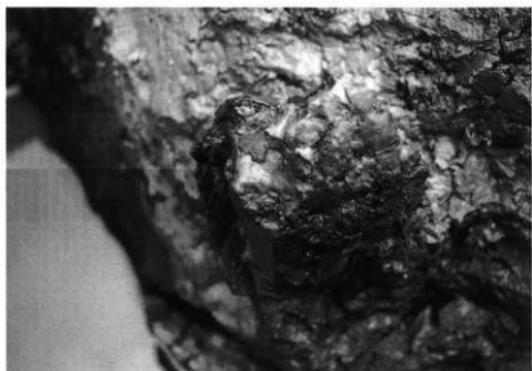
1号土坑遗物出土状况④



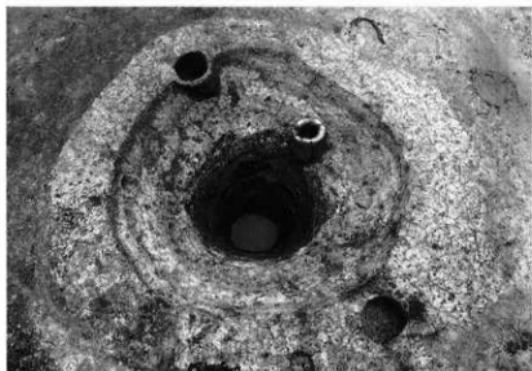
図版24
1号土坑遺物出土状況⑤



図版25
1号土坑瓢箪出土状況



図版26
1号土坑完掘状況



图版27
2号土坑检出状况



图版28
2号土坑完掘状况



图版29
1号溝状遗構检出状况





图版30
1号溝状遺構完掘状况



图版31
2号溝状遺構西侧完掘状况



图版32
2号溝状遺構遺物出土况①

図版33
2号溝状遺構遺物出土状況②

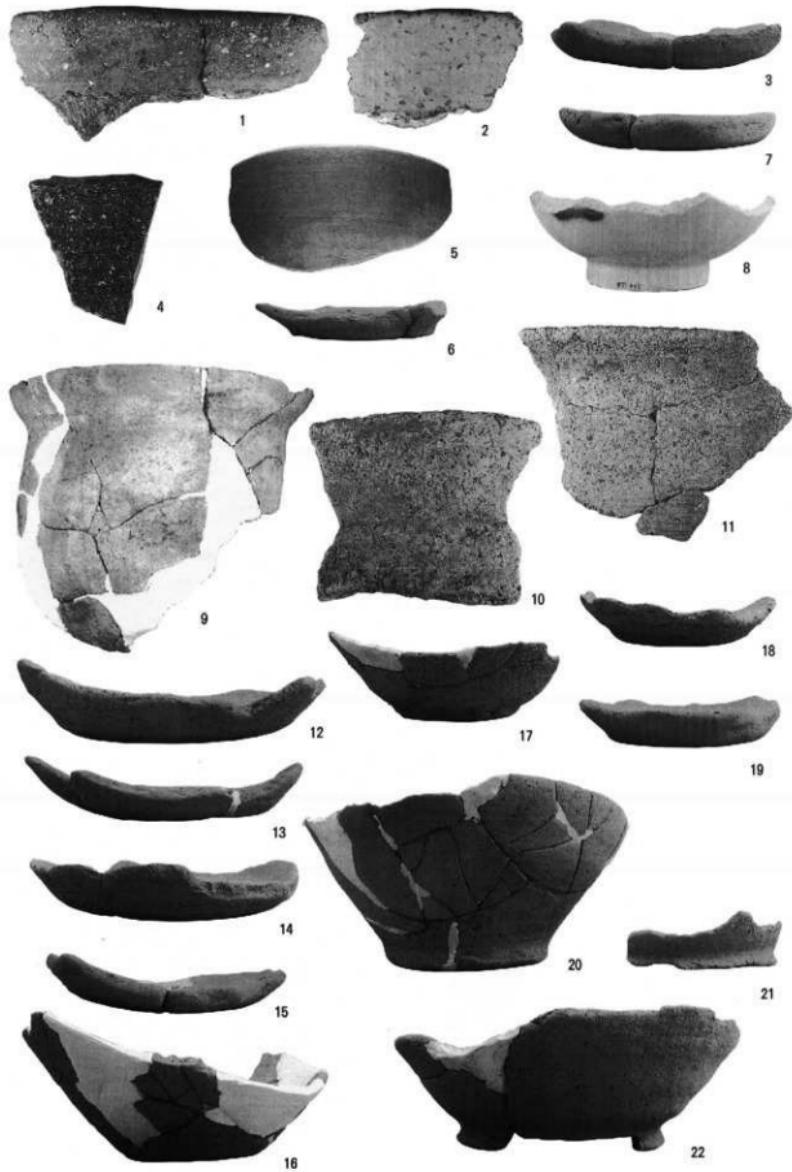


図版34
C区北側Ⅳ層遺物出土状況①

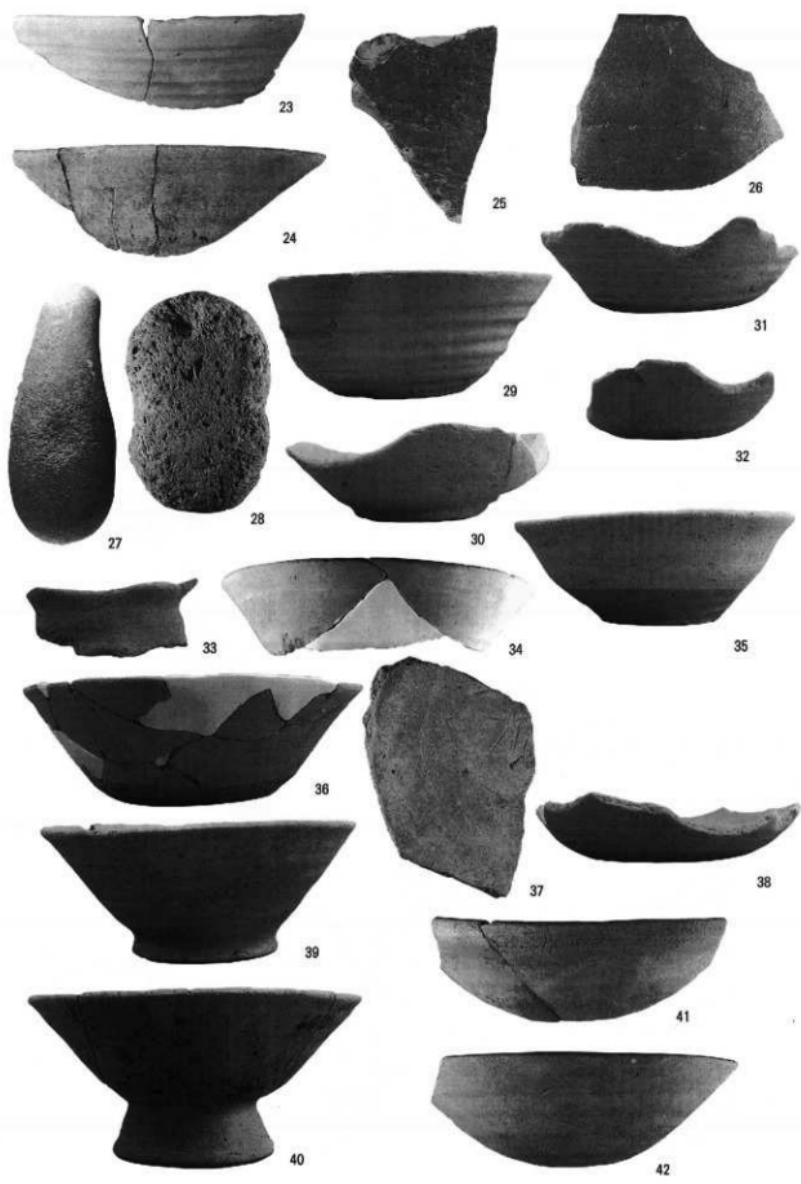


図版35
C区北側Ⅳ層遺物出土状況②

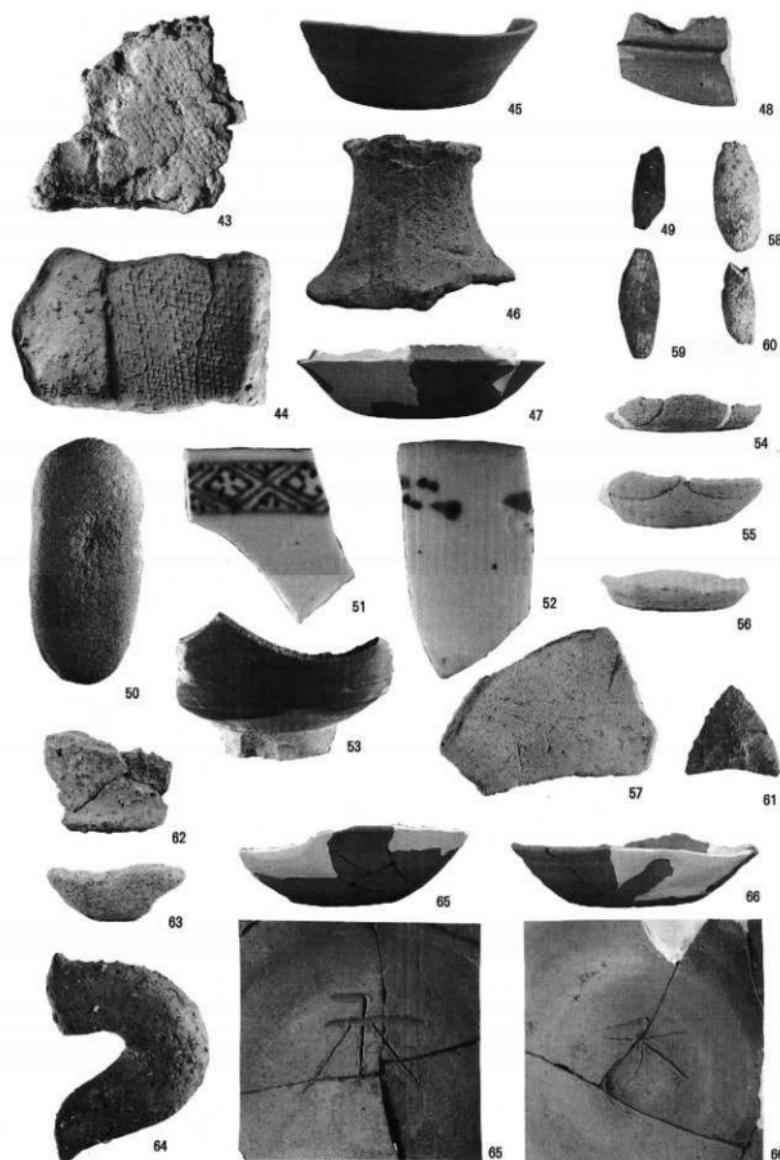




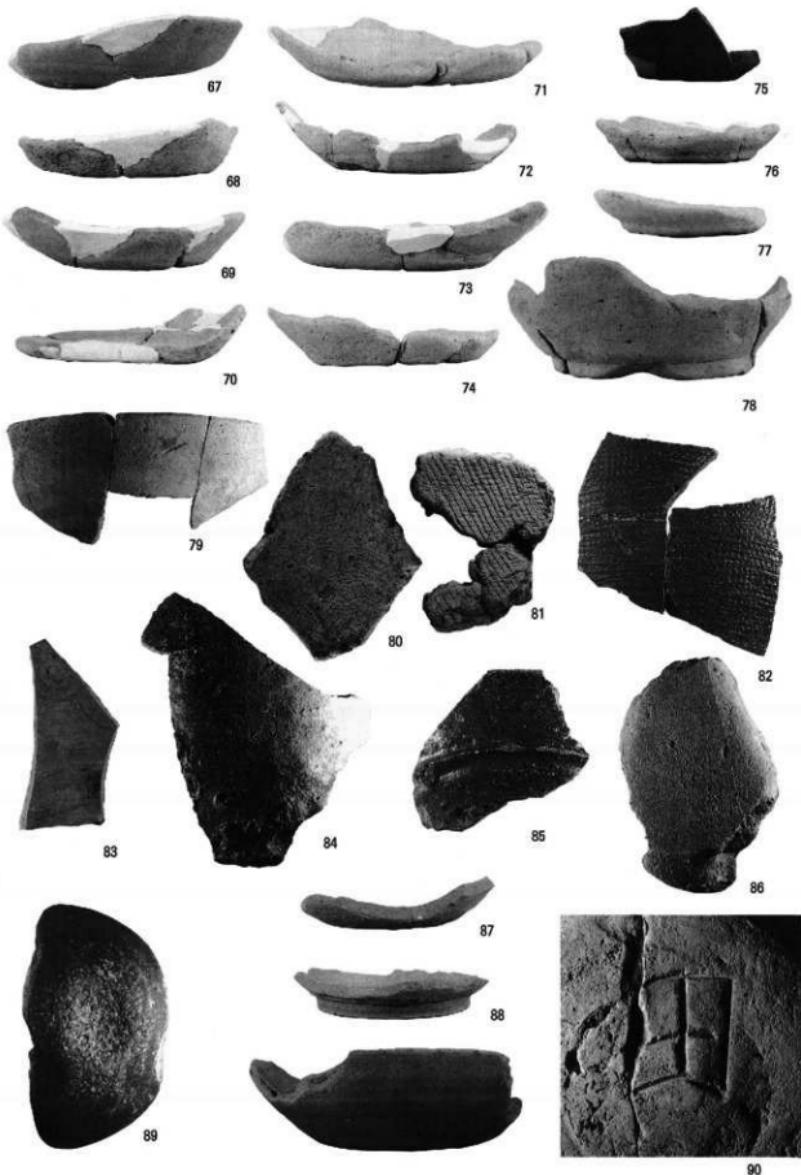
図版36 出土遺物①



图版37 出土遗物②



図版38 出土遺物③



図版39 出土遺物④

第Ⅳ章 附

宮崎市、深田遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 深田遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

宮崎県中南部に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、姶良カルデラや鬼界カルデラなど遠方の火山、さらに桜島火山や霧島火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。そこで、年代の不明な土層が検出された深田遺跡においても、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行い、示標テフラの検出同定を試みることになった。調査分析の対象となった地点は、B区北壁断面およびSE-1である。

2. 土層の層序

(1) C区北壁断面

C区北壁断面では、下位より青灰色砂層（層厚82cm）、灰色砂層（層厚17cm）、亜角礫混じり褐灰色砂層（層厚6cm、礫の最大径152mm）、成層した黄白色シルトと砂の互層（層厚17cm）、かすかに成層し淘汰の良い灰色砂層（層厚28cm）、淘汰の良い灰色砂層（層厚24cm）、灰色砂層（層厚15cm）、層理の発達した灰白色砂層（層厚14cm）、若干色調の暗い灰色シルト層（層厚6cm）、黒泥層（層厚12cm）、黒褐色泥層（層厚11cm）、褐色スコリアに富む褐色土（層厚8cm、スコリアの最大径5mm）、褐色スコリア混じり黒褐色土（層厚10cm、スコリアの最大径4mm）、褐色スコリアに富む黒褐色土（層厚16cm、スコリアの最大径3mm）、暗褐色土（層厚16cm）、暗灰褐色土（層厚13cm）が認められる（図1）。

(2) SE2

溝状遺構であるSE2の覆土は、下位より成層した灰色シルト層（層厚9cm）、黒灰褐色泥層（層厚29cm）、褐色スコリアに富む暗褐色土（層厚5cm、スコリアの最大径3mm）、褐色スコリアを多く含む暗褐色土（層厚23cm、スコリアの最大径3mm）、灰褐色表土（層厚21cm）からなる（図2）。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

土層や年代に関する資料を得るために、C区北壁断面において基本的に厚さ5cmごとに採取